



## 取扱説明書

### ■ レシプロコンプレッサ

#### エンジン駆動形

PFUE07C-10

TLUE22C-14S

PLUE15C-10

TLUE37C-14S

PLUE22CB-10

PLUE22CB-10S

PLUE37C-10

このたびは、エンジン付きコンプレッサをお買い上げいただきましてありがとうございました。

- ご使用前に、この「取扱説明書」を必ずお読みください。
- お読みになった後は、本書を手近な所に保管しご活用ください。
- 付属のエンジン取扱書も必ずお読みください。

お読みになった後は、本書と共に保管しご活用ください。

※お使いになる前に、必ず下表の空欄に必要事項をご記入ください。  
修理・サービスの際に必要となり、お客様のお役に立ちます。

形 式 MODEL	
製造番号 SERIAL NO.	
購 入 先	
購入年月	年 月 日
使用開始日	年 月 日



# 残留リスク

## ■ 機械ユーザによる保護策が必要な残留リスクマップ (略称: 残留リスクマップ)

製品形式: PFUE07C-10、PLUE15C-10、PLUE22CB-10、PLUE22CB-10S、PLUE37C-10 (本ページに記載)  
TLUE22C-14S、TLUE37C-14S (次ページ残留リスク2に記載)

2018年12月 作成 アネスト岩田株式会社

※ご使用前に必ず本書をよく読み、内容をよく理解したうえで本製品を使用してください。

この資料は取扱説明書の参考資料です。本資料の内容を理解しただけで本製品を使用しないでください。

残留リスクは、下記の定義に従って分類し記載している。

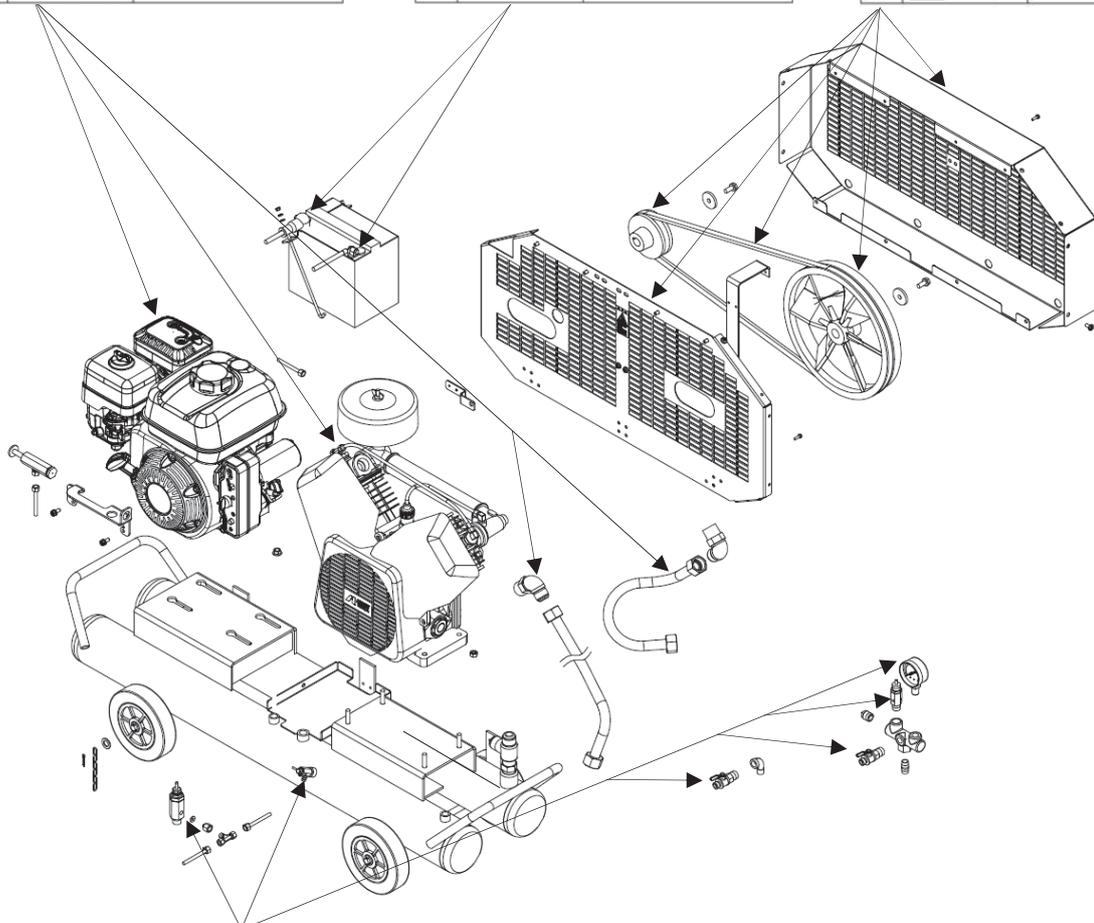
- ⚠ 危険 : 保護策を実施しなかった場合に、人が死亡または重症を負う可能性が高い内容
- ⚠ 警告 : 保護策を実施しなかった場合に、人が死亡または重症を負う可能性がある内容
- ⚠ 注意 : 保護策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

図中に示されている箇所の記号及び番号は、本製品の「残留リスク一覧(残留リスク3~5ページ)」に記載されているものと一致しています。  
各々の残留リスクの詳細については「残留リスク一覧」を参照してください。

箇所 B	⚠ 危険	No. 2
	⚠ 警告	
	⚠ 注意	

箇所 E	⚠ 危険	
	⚠ 警告	
	⚠ 注意	No.17

箇所 A	⚠ 危険	
	⚠ 警告	No.5, 16
	⚠ 注意	



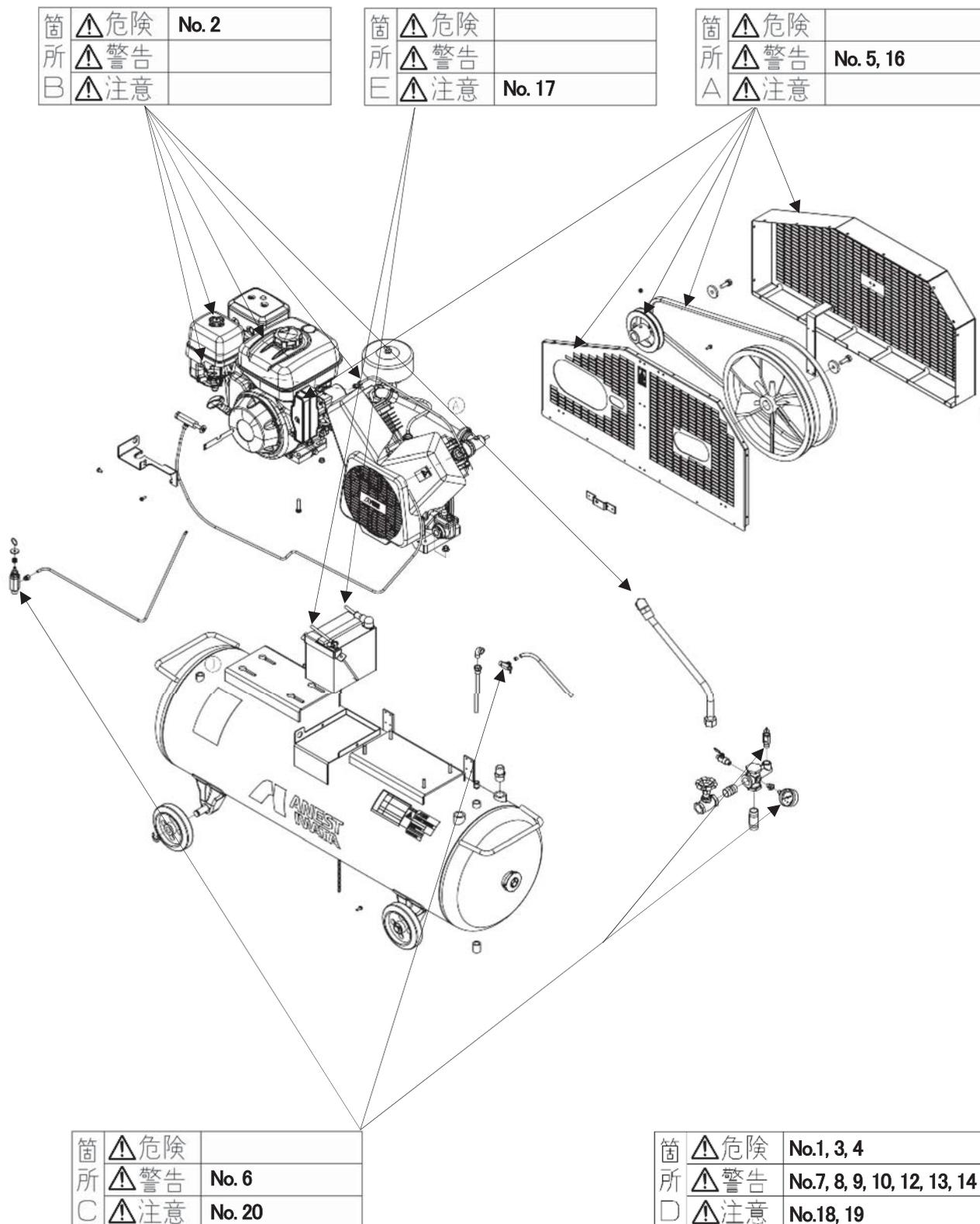
箇所 C	⚠ 危険	
	⚠ 警告	No.6
	⚠ 注意	No.20

箇所 D	⚠ 危険	No.1, 3, 4
	⚠ 警告	No.7, 8, 9, 10, 12, 13, 14
	⚠ 注意	No.18, 19

# 残留リスク

## ■ 機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ (略称: 残留リスクマップ)

製品形式: TLUE22C-14S、TLUE37C-14S



# 残留リスク

危害程度：警告

No.	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上箇所	危害程度	危害内容	機械ユーザが実施する保護方策	取扱説明書ページ
5	運転保守	運転する時メンテナンスを実施する時	—	A	警告	ベルト・プーリ・ファンに手や工具等を近づけると巻き込まれケガをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業に入る前には停止スイッチを押してコンプレッサを停止させる。</li> <li>コンプレッサの分解が伴う作業は行わない。</li> </ul>	P3 P18
6	運転保守	運転する時メンテナンスを実施する時	—	C	警告	圧縮空気が噴出したり、物が飛散することでケガをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転中に付属の機器を取り外さない。</li> <li>作業前には必ずコンプレッサの空気を全て抜き、圧力がないことを確認する。</li> <li>指定圧力以上に制御圧力を調整しない。</li> </ul>	P13 P19
7	運転	運転する時	—	D	警告	圧縮空気を吸引して、ケガをする。また、コンプレッサ周辺の大気に有毒ガス等が含まれていると、同じものが圧縮空気にも含まれるため、吸引すると人体に重大な影響を与える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器には使用しない。</li> <li>周囲に有毒ガス等がない場所に設置する。</li> <li>換気の悪いトンネル内や密室での使用はしない。</li> </ul>	P2
8	運転	運転する時	—	D	警告	コンプレッサが故障すると人命にかかわる設備が止まり人体に重大な損傷を与える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>圧縮空気を人命に関わる設備に使用しない。</li> </ul>	P2
9	運転保守	運転する時メンテナンスを実施する時	—	D	警告	性能低下、寿命低下の原因となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみやほこりが堆積する場所に設置しない。</li> </ul>	P8
10	運転保守	運転する時メンテナンスを実施する時	—	D	警告	爆発・発火し、ケガ・火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定のオイルを使用する。</li> </ul>	P1
11	運転保守	運転する時メンテナンスを実施する時	—	D	警告	破損事故、寿命低下の原因となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品の改造はしない。</li> <li>修理は専門の業者に依頼すること。</li> <li>定期的に保守点検、整備を行なうこと。</li> </ul>	P2
12	運転	運転する時	—	D	警告	酸欠、ガス中毒を起こす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>室内、トンネル内など換気の悪い場所で使用しない。</li> </ul>	P2 P7
13	運転	運転する時	—	D	警告	爆発・火災・破損する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>空気以外の気体の圧縮には絶対に使用しないこと。</li> </ul>	P1
14	運転	運転する時	—	D	警告	破損事故、寿命低下の原因となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲温度が2～40°Cの場所で使用のこと。</li> </ul>	P3 P7
15	運転	運転する時	—	D	警告	潤滑不良による焼付き、破損事故。	<ul style="list-style-type: none"> <li>水平な場所に設置すること。</li> <li>潤滑油量を確認し、不足の場合は給油すること。</li> </ul>	P3 P13
16	運転	運転する時	—	D	警告	ケガをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転中は回転部を手を触れないこと。</li> </ul>	P3

# 残留リスク

## ■ 機械ユーザによる保護策が必要な残留リスク一覧（略称:残留リスク一覧）

製品形式： PFUE07C-10、PLUE15C-10、PLUE22CB-10、PLUE22CB-10S、PLUE37C-10  
TLUE22C-14S、TLUE37C-14S

2018年12月 作成 アネスト岩田株式会社

※ご使用前に必ず本書をよく読み、内容をよく理解したうえで本製品を使用してください。

この資料は取扱説明書の参考資料です。本資料の内容を理解しただけで本製品を使用しないでください。

残留リスクは、下記の定義に従って分類し記載している。

- ⚠ 危険：保護策を実施しなかった場合に、人が死亡または重症を負う可能性が高い内容
- ⚠ 警告：保護策を実施しなかった場合に、人が死亡または重症を負う可能性がある内容
- ⚠ 注意：保護策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

「機械上の箇所」列に示されている記号は、本製品の「残留リスクマップ(残留リスク1、2 ページ)」に記載されているものと一致しています。  
機械上の具体的な箇所については「残留リスクマップ」を参照してください。

危害程度：危険

No	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上の箇所	危害程度	危害内容	機械ユーザが実施する保護策	取扱説明書ページ
1	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンス を実施する時	—	D	危険	爆発・発火し 死亡・ケガ・火傷をする。	・ 爆発性・引火性ガス、有機溶剤など、 可燃物の付近に設置しない。	P1 P7
2	運転	運転する時	—	B	危険	引火・火災により 死亡・ケガ・火傷する。	・ エンジンを停止してから燃料を補給 する。 ・ こぼれた燃料はきれいこふき取る。	P1 P9 P13
3	運転	運転する時	—	D	危険	引火・火災により 死亡・ケガ・火傷する。	・ エンジンのまわりは火気厳禁と する。	P1 P7
4	運搬	運搬する時	—	D	危険	引火・火災により 死亡・ケガ・火傷する。	・ 運搬時は燃料を抜く。	P1

# 残留リスク

危害程度：注意

No.	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上箇所	危害程度	危害内容	機械ユーザが実施する保護方策	取扱説明書ページ
17	保守	メンテナンスを実施する時	—	E	注意	ショートし火傷する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バッテリーを外すときは(－)からコードを外す。</li> <li>・ バッテリーを取付けるときは(＋)からコードをつける。</li> </ul>	P9
18	運転	運転する時	—	D	注意	高温部に触れて火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運転中や停止直後のエンジンに手を触れない。</li> <li>・ 運転中や停止直後のコンプレッサ各部に手を触れない。</li> </ul>	P3
19	運転	運転する時	—	D	注意	難聴などの障害を起こす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耳栓を着用する。</li> </ul>	P3 P10
20	運転 保守	運転する時 メンテナンスを実施する時	—	C	注意	周辺のものが倒れ、ケガをする。製品が転倒し、巻き込まれケガをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不用意なストップバルブの解放をしない。</li> </ul>	P14

# はじめに

## ■ 重要なお知らせ

この取扱説明書には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。

### ⚠ 危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

### ⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

### ⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

## ■ 絵表示例

	この記号は「注意すべきこと」を意味しています。 この記号の中や近くに、具体的な注意内容を表示します。		(上の例は感電注意)
	この記号は「してはいけないこと」を意味しています。 この記号の中や近くに、具体的な禁止内容を表示します。		(上の例は接触禁止)
	この記号は「しなければならないこと」を意味しています。 この記号の中や下に、具体的な指示内容を表示します。		(上の例は必ずアース線を接続せよ)

## ■ 補足表示



### お願い

この記号は、機械の性能や機能を十分に発揮してお使いいただくために守っていただきたい内容を示しています。

警告、注意の表示を無視して使用した場合の損害および損傷については、当社は一切責任を負えませんのでご了承ください。

## ■ 法律による届出（騒音規制法および振動規制法）

7.5kW以上の空気圧縮機を設置の場合は届出の対象となります。

運用は都道府県条例により規制内容が異なりますので、詳細は所轄の区・市・町・村役場の担当課へお問い合わせください。(7.5kW未満の空気圧縮機でも届出が必要となることがあります。)

届出場所	所轄の区・市・町・村役場の担当課
届出期日	設置工事開始または変更の30日前
届出内容	新設届、導入数の変更届

※設置の際、工事または事業所の敷地境界線上で騒音振動が、地域で定められた規制値以下を守らなければなりません。

## ■ この商品の保証について

巻末に保証と修理サービスについての説明があります。内容をよくお読みください。

## ■ 付属のエンジン取扱説明書も必ず読んでご理解のうえ使用してください。

# 目次

## はじめに

- 重要なお知らせ

## 目次

## 安全上のご注意

1～4

- 危険 1
- 警告 1～3
- 注意 3
- 警告表示貼り付け位置 4

## 現品確認

5

- 形式の見方 5
- 付属品一覧 5

## 各部の名称

6

- タンクマウント形 6
- ポータブル形 6

## 設置場所

7～8

- 危険 7
- 警告 7
- お願い 8

## 試運転

9～12

- 準備 9
- 試運転 9
- 運転制御確認 10
- エンジン始動のしかた 11～12

## 日常運転管理

13～16

- 運転開始 13
- 運転中 13
- 運転終了 14
- 残圧時エンジン再始動方法
  - TLUE22C-14S 15
  - TLUE37C-14S 16

## 保守・点検

17～20

- 保守点検一覧表 17～18
- 分解上の注意 19
- 組立上の注意 (給油式の場合) 19
- オイルフリー本体取扱上の注意 19
- 部品の購入について 20
- 機能点検 20
- 制御機器の設定圧力の調整 20

## 故障の原因と対策

21

## 周辺機器の購入について

22

## 第二種圧力容器点検記録

23

## 立体分解図

24～34

- レシプロコンプレッサ(本体)
  - F07-10 24
  - L15-10 25
  - L222-10、L224-10 26
  - L222-14、L372-14 27
- レシプロコンプレッサ
  - PFUE07C-10 28
  - PLUE15C-10 29
  - PLUE22CB-10 30
  - PLUE22CB-10S 31
  - PLUE37C-10 32
  - TLUE22C-14S 33
  - TLUE37C-14S 34

## 保証と修理サービス

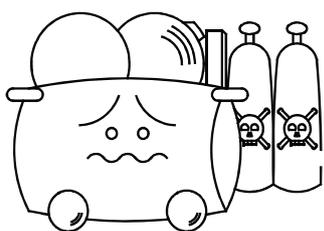
- 保証について
- 修理サービスについて
- お問い合わせに対する連絡先について

# 安全上のご注意

ここに示した内容は、安全に関する重大な内容ですので、ご使用前に、よくお読みのうえ正しくお使いください。エンジンに関する安全上のご注意はエンジンの取扱説明書を参照してください。

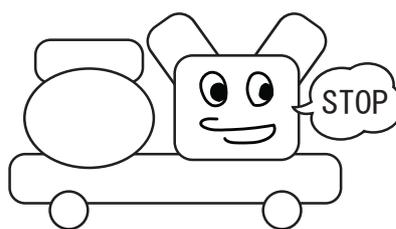
## ⚠ 危険

爆発性ガス、引火性ガス(アセチレン・プロパンガスなど)、可燃物のない場所で使用すること。  
※爆発・発火の原因となります。



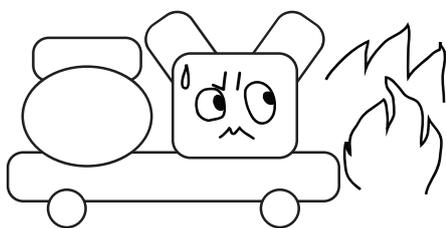
安全な場所で  
使用する

燃料はエンジンを止めてから補給すること。  
※引火、火災の原因となります。



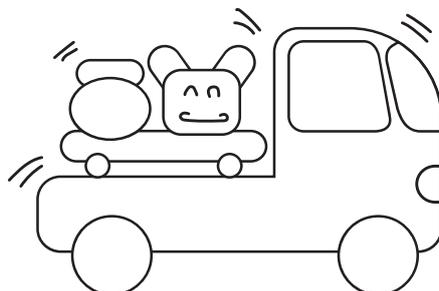
停止後  
燃料補給

エンジンのまわりは火気厳禁。  
※燃料に引火、火災の原因となります。



火気厳禁

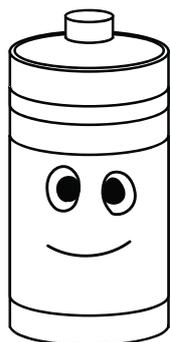
運搬時はエンジンの燃料を抜くこと。  
※火災の原因となります。



運搬時  
燃料を抜く

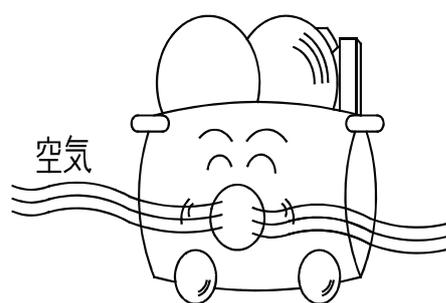
## ⚠ 警告

コンプレッサ用潤滑油は、アネスト岩田レシプロコンプレッサオイルを使用すること。  
(給油式のみ)  
※指定外の潤滑油を使用すると爆発・発火の原因となります。



指定潤滑油の  
使用

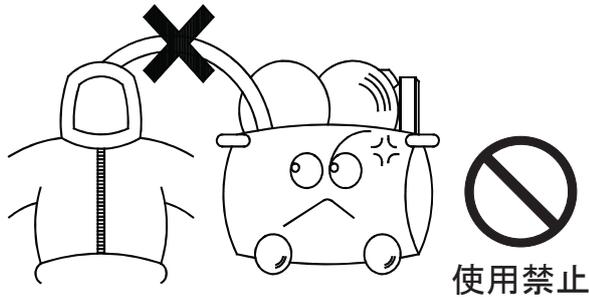
空気以外の気体の圧縮には絶対使用しないこと。  
※爆発、火災、破損などの原因となります。



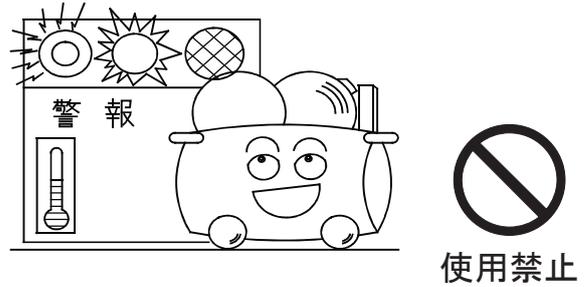
空気以外の  
ガスの  
圧縮禁止

## 警告

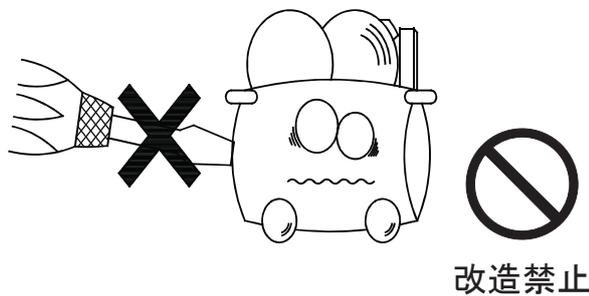
人体に向けてむやみに噴射すると、失明や死亡などの重大な事故を引き起こす恐れがあります。  
また、圧縮空気を直接吸引する設備装置（呼吸器系の装置等）には使用しないでください。



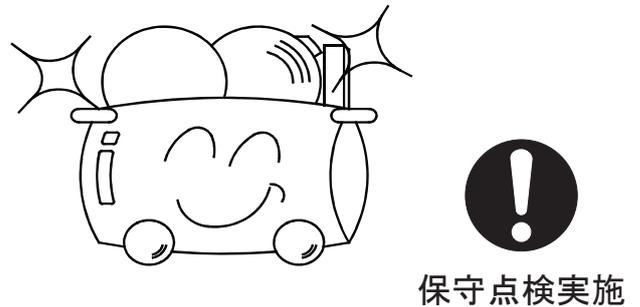
圧縮空気を人命に関わる設備に使用しないこと。  
（使用する場合は必ず安全装置を装備してください）  
※人体に重大な損害を与える危険があります。



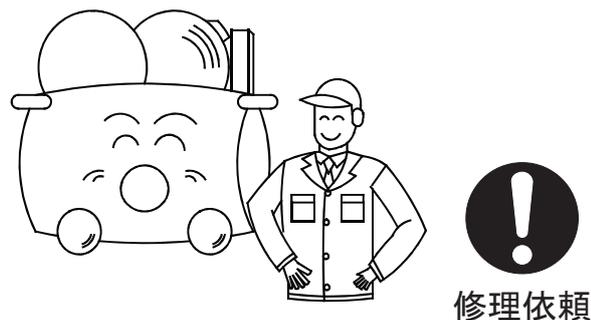
製品の改造はしないこと。  
※破損事故や寿命低下の原因となります。



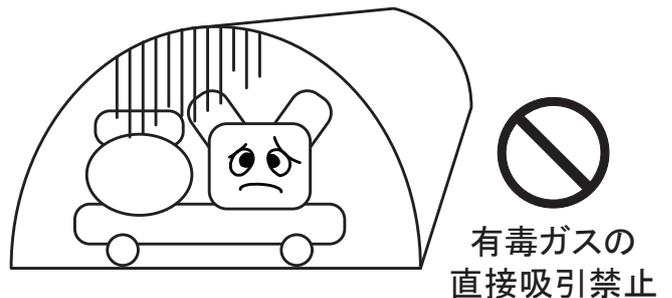
定期的に保守点検、整備を行なうこと。  
（17～20ページ参照）  
※発火や破損事故の原因となります。



修理は専門の業者に依頼すること。  
※修理に不備があると破損事故や寿命低下の原因となります。



室内、トンネル内など換気の悪い場所では使用しないこと。  
※酸欠やガス中毒を起こす危険があります。



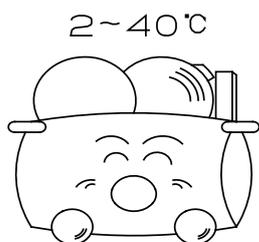
# 安全上のご注意

## ⚠ 警告

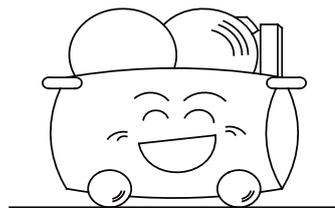
周囲温度が2~40℃(運転中)の場所で使用のこと。  
※2℃未満ではドレンの凍結により、故障の原因になります。2℃未満で使用する時は最寄りの販売店または当社支店・営業所へ問合せください。  
40℃を超える環境では、寿命低下や破損事故の原因になります。

水平な場所を選び、すべての車輪が床面または地面に付くように設置してください。

※潤滑不良で焼付きによる破損事故の原因となります。



規定温度で使用する



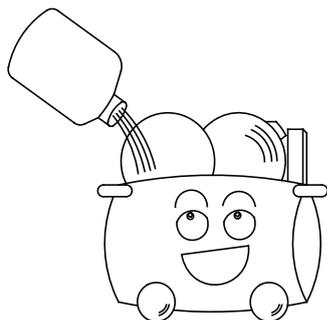
設置を安定化する

運転前に潤滑油量を確認し、不足の場合は給油をすること。(給油式のみ)

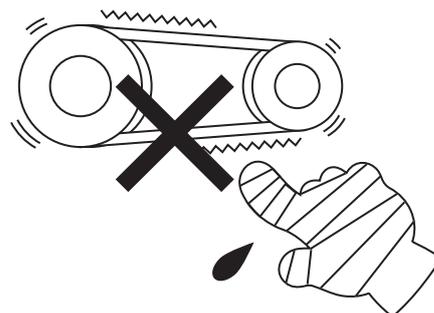
※潤滑不良で焼付きによる破損事故の原因となります。

運転中は回転部(ファン・プーリー・ベルト)に手を触れないこと。

※手が巻き込まれるおそれがあります。



油量の確認



接触禁止

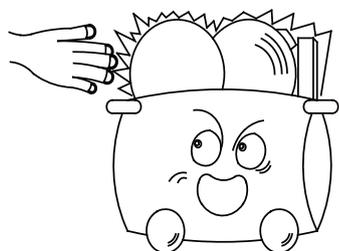
## ⚠ 注意

運転中や運転直後はコンプレッサ各部に直接手を触れないこと。

※火傷するおそれがあります。

運転中は耳栓を着用してください。

※難聴などの障害を起こす場合があります。



接触禁止



耳栓の着用

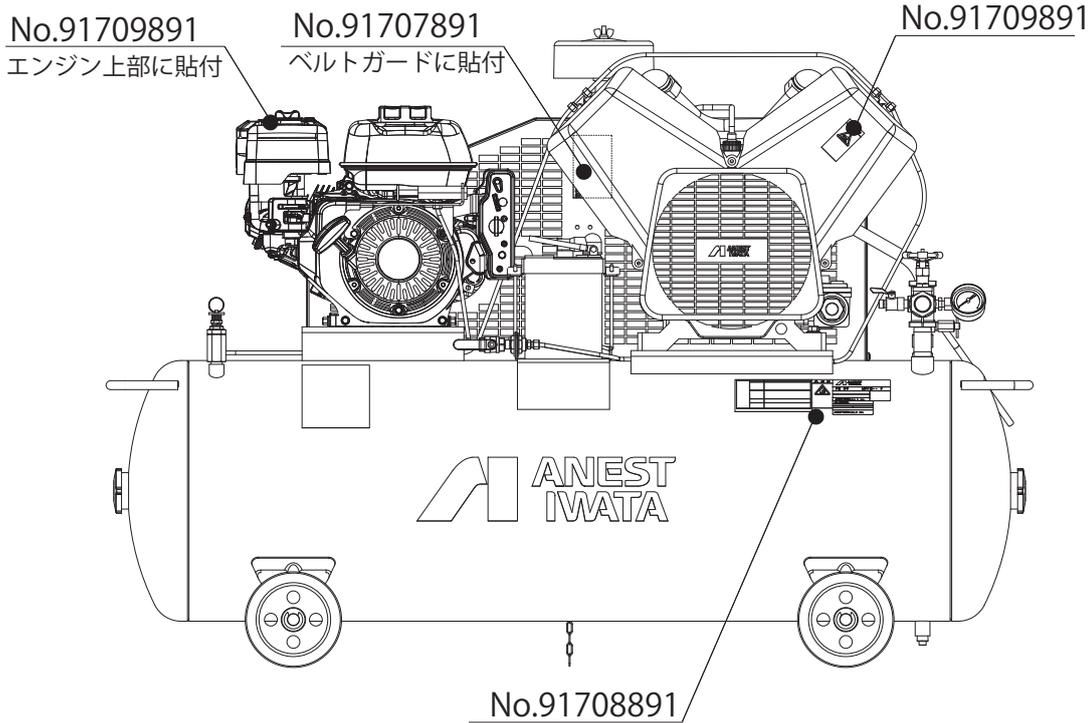


エアコンプレッサは、製造生産設備等に圧縮空気を供給するための製品です。  
圧縮空気は大きなエネルギーを持っているため、人体に向けて人体に向けてむやみに噴射すると、失明や死亡などの重大な事故を引き起こす恐れがあります。着衣の上からであっても同様です。人体に向けて噴射する必要がある場合、十分な安全対策を講じた設備・装置・器具類を使用し、それらの取り扱い要領に従って十分に注意してご使用ください。

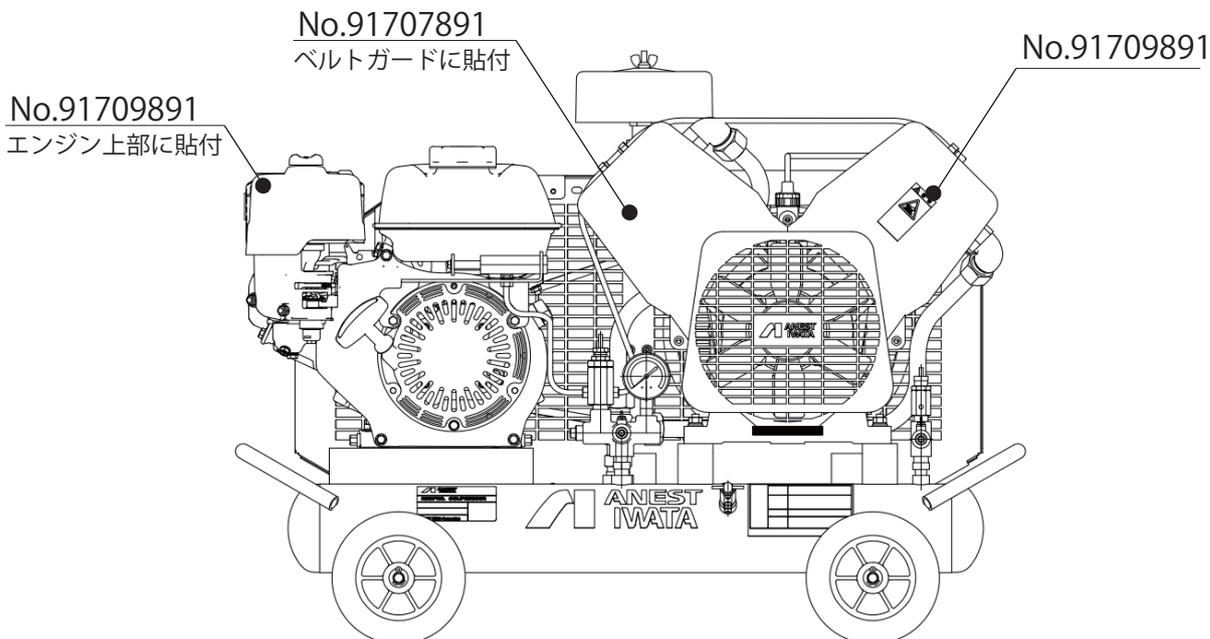
## 警告表示貼り付け位置

警告表示は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。  
表示銘板の購入は最寄りの販売店または当社支店・営業所にお申し付けください。  
代表形式を図示しておりますが、形式により外観形状と貼り付け位置が一部異なります。

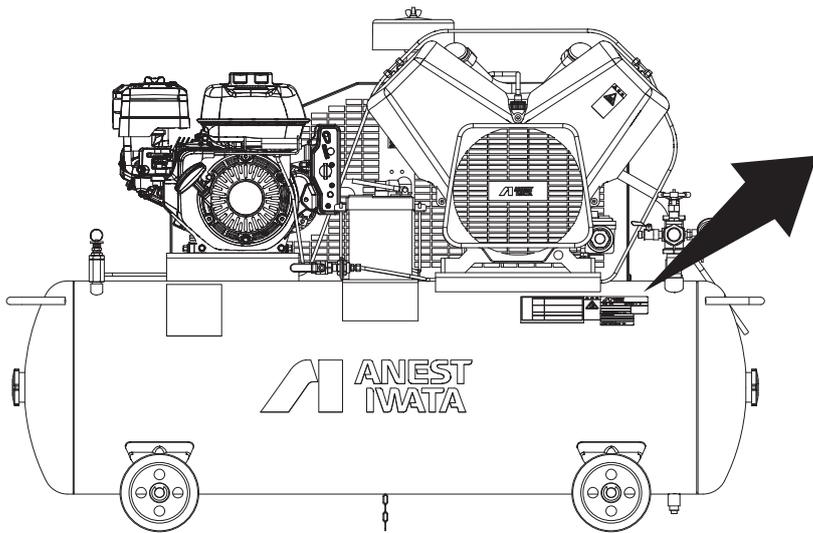
## タンクマウント形



## ポータブル形



# 現品確認



<b>ANEST IWATA</b>	
RECIPRO. COMPRESSOR	
MODEL	
SERIAL NO.	
ANEST IWATA Corporation	

形式  
製造番号

## 形式の見方

**P L U E 37 C - 10 S**

コンプレッサ構造を表わしています。

表示	T	P
コンプレッサ構造	タンクマウント形	ポータブル形

潤滑方式を表わしています。

表示	L	F
コンプレッサ本体の潤滑方式	給油式	オイルフリー式

アンローダ制御方式

エンジンの種類

表示	E
エンジンの種類	ガソリンエンジン

セルスタート方式の場合  
"S"が表示されます。

圧力を表わします。

表示	10	14
最高圧力MPa	1.0	1.4

タイプの識別

出力を表わします。

表示	07	15	22	37
出力kW	0.75	1.5	2.2	3.7
(P S)	(1)	(2)	(3)	(5)

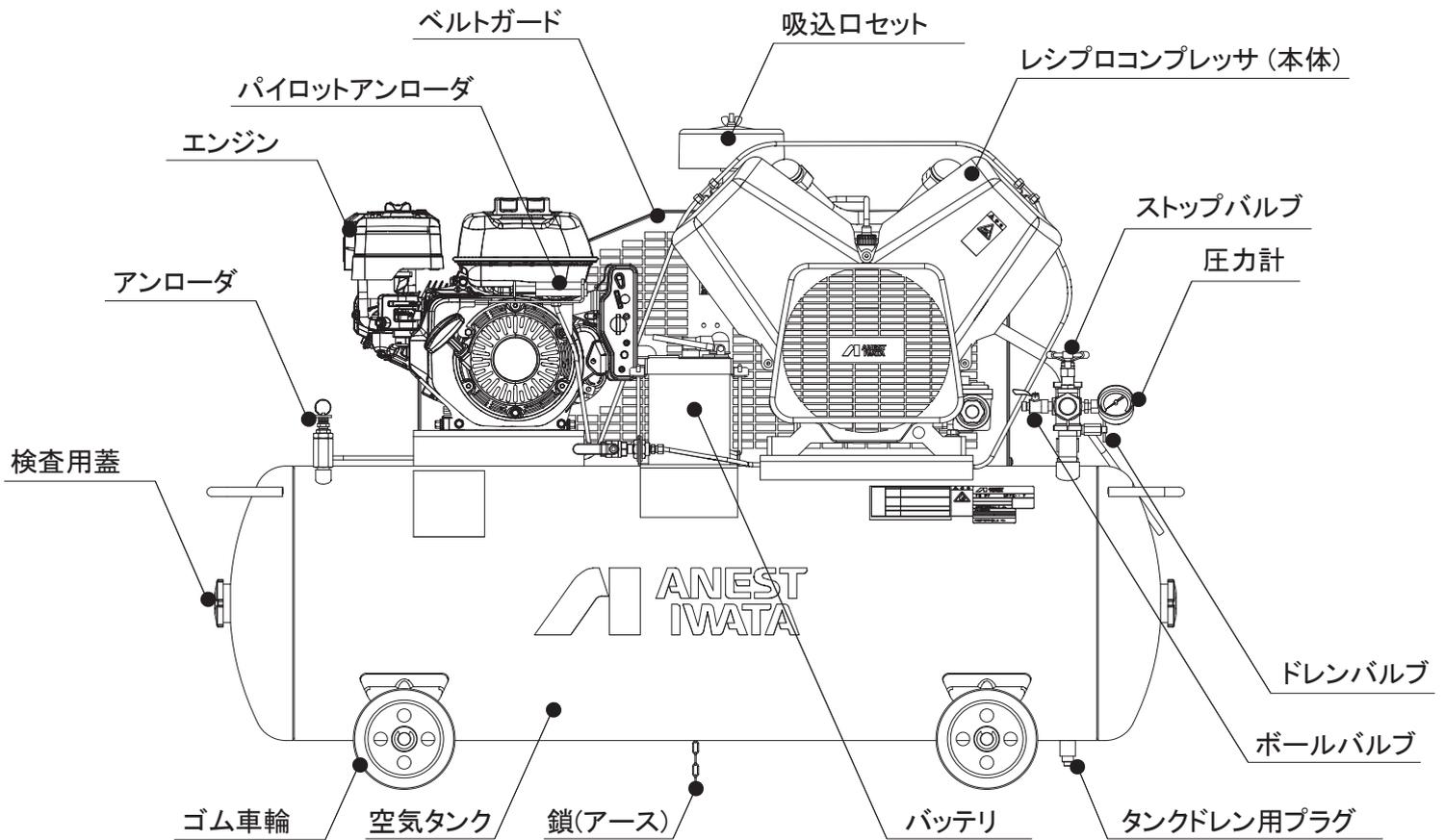
## 付属品一覧

- |                    |    |                                 |    |
|--------------------|----|---------------------------------|----|
| ◎ 取扱説明書            | 1部 | ◎ ジョーゴ                          | 1個 |
| ◎ エンジン取扱説明書        | 1部 | (オイルフリー式にはエンジンオイル注入用として付属)      |    |
| ◎ 潤滑油              | 1個 | ◎ 第二種圧力容器明細書                    | 1部 |
| (オイルフリー式には付属されません) |    | (ポータブル形<形式の初めに"P"が付く>には付属されません) |    |
| ◎ プラグレンチ (エンジン用)   | 1式 |                                 |    |
| ◎ ディフレクタ (エンジン用)   | 1式 |                                 |    |

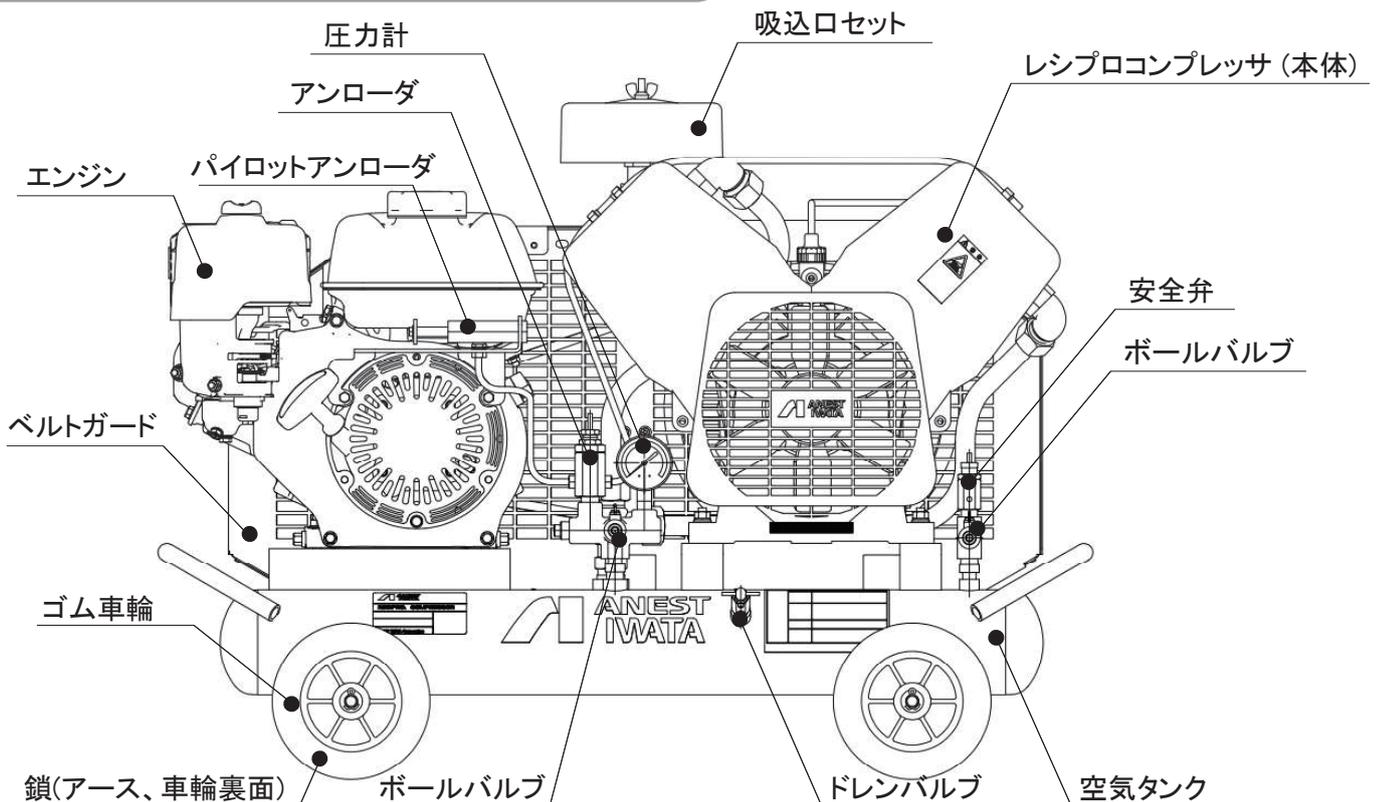
# 各部の名称

代表形式を図示しておりますので、形式により構成部品やエンジンの形状および外観形状が異なります。

## ■タンクマウント形



## ■ポータブル形



# 設置場所

設置には下記の事項を必ずお守りください。

## ⚠ 危険

エンジンのまわりでは火気を使用しないでください。

- 燃料に引火、火災の原因となります。



火気厳禁

近くに爆発性ガス、引火性ガス(アセチレン・プロパンガスなど)、可燃物のない場所に設置してください。

- 不適當な場所では、爆発、発火事故の原因となります。



安全な場所で  
使用する

## ⚠ 警告

室内・トンネル内など換気の悪い場所では使用しないでください。

- 酸欠やガス中毒を起こす危険があります。やむをえない場合は、排気ガスの室外放出など、十分換気をしてください。
- 吸気口は必ず確保してください。室内が負圧となり排気不良の原因となります。



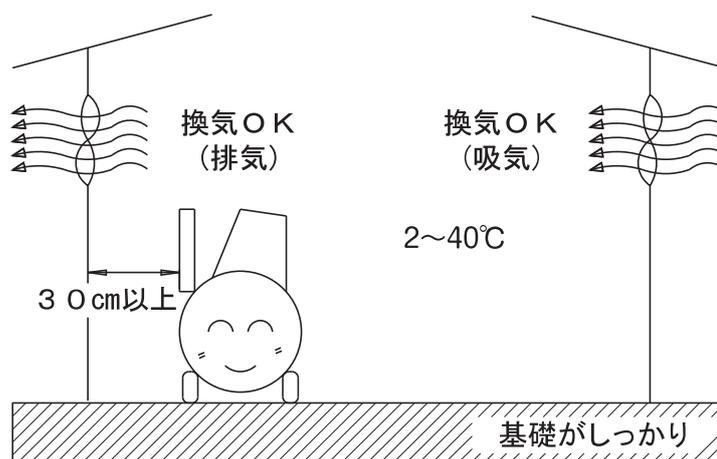
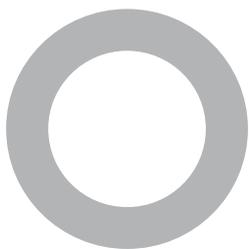
有毒ガス  
直接吸引禁止

周囲温度が $2^{\circ}\text{C}$ ~ $40^{\circ}\text{C}$ で腐食性ガスの無い場所でご使用ください。

- $2^{\circ}\text{C}$ 未満の使用は、ドレンの凍結によりコンプレッサ各部に作動不良が発生する原因となります。 $2^{\circ}\text{C}$ 未満で使用する時は、当社支店・営業所にお問い合わせください。
- $40^{\circ}\text{C}$ を超える環境での使用は、寿命低下や破損事故を起こすことがあります。
- 腐食性ガスの雰囲気での使用は、コンプレッサの寿命低下の原因となりますので、換気に十分ご注意ください。



規定温度で  
使用する



## 警告

ごみやほこりの少ない場所を選んでください。

- 鉄粉・石粉・研磨粉・木屑などを吸い込むと、吸込フィルタの目詰まりによる性能低下やコンプレッサ内部の異常摩擦を生じさせるなど寿命低下の原因となります。



塵埃のない場所に設置する

## お願い

水平で基礎がしっかりしている場所を選び、車輪は4個ともがたつきのないよう床面に設置してください。

- 設置が不安定で車輪が浮いていると、異常振動や異音が各部の破損の原因となります。



設置を安定化する

ベルトガード側は壁面と30cm以上離して設置してください。

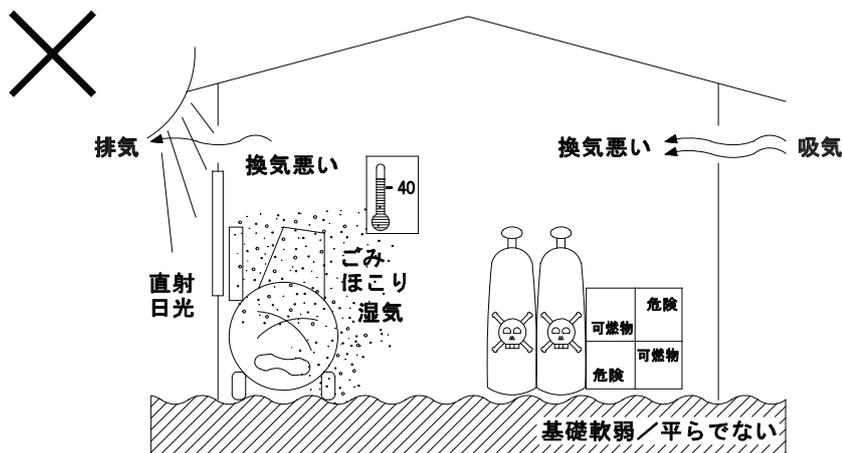
- 壁面に近い設置は、コンプレッサの冷却効果を低下させ、寿命低下の原因となります。



密着禁止

※ 次の場合は、必ず最寄りの当社支店・営業所までご相談ください。

- 圧力等を変更したい場合。
- 特殊な用途、場所で使用する場合。

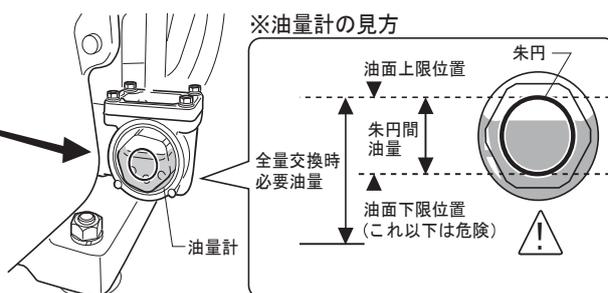
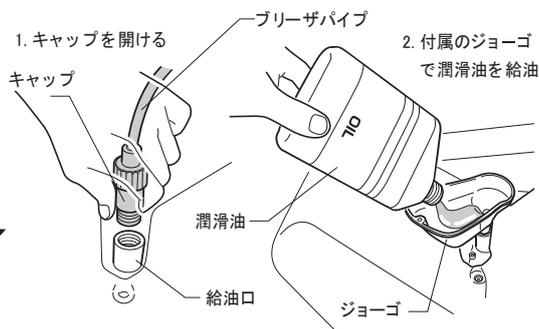
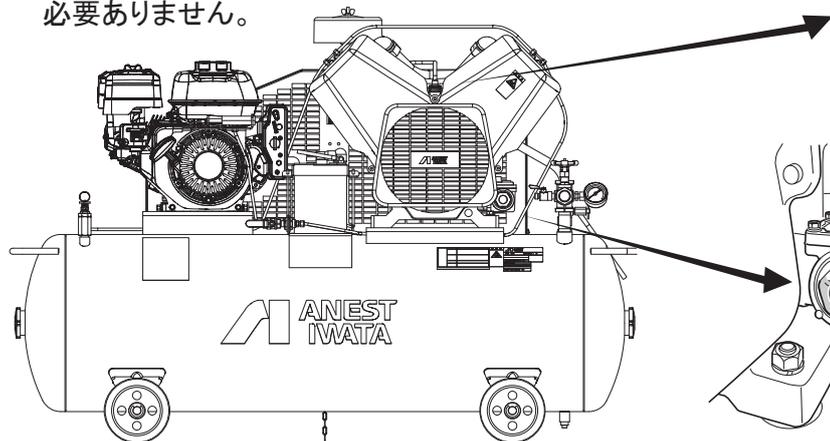


# 試運転

## ■ 準備

コンプレッサの潤滑油量を油量計で確認し不足している場合は、コンプレッサオイルを補給してください。  
(給油式の場合)

※オイルフリー式はコンプレッサへの潤滑油給油は必要ありません。



形式により油量計の取付け状態が図と異なります。

出力 (kW)	全交換時の必要油量 (L)	朱円間油量 (L)	備考
1.5	0.5	0.25	—
2.2/3.7	0.8	0.4	圧力が1.0MPa以下の製品
2.2/3.7	1.2	0.7	圧力が1.4MPaの製品

エンジンの潤滑油量確認は、エンジンの取扱説明書を参照してください。  
エンジンの給油はエンジンの取扱説明書を参照してください。

※ エンジンGX120には燃料レベルゲージが付いていません。

燃料タンクのガソリン残量として、白い樹脂の口元フィルタと液面で判断します。

(1)口元フィルタ上限:2L (2)口元フィルタ中央面:1.4L (3)口元フィルタ下端:0.8L

セルスタータ付モデルはバッテリーへコードを接続してください。

### ⚠ 危険

こぼれたガソリンはきれいにふき取ってください。  
引火する恐れがあります。

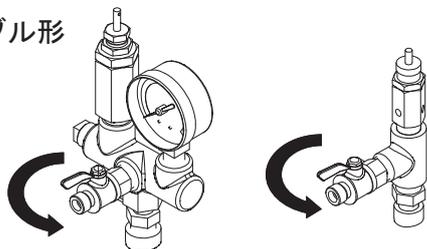
### ⚠ 注意

バッテリーを外すときは(-)側からコードを外します。  
取り付けるときは(+ )側からコードを取り付けます。

## ■ 試運転

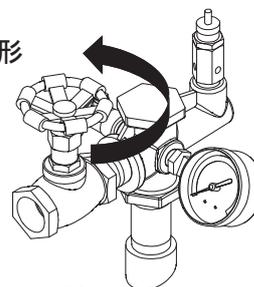
エンジンの運転方法は、P11・12の始動方法及び、エンジン取扱説明書をご確認ください。  
●ストップバルブを全開にしてください。形式により、ストップバルブのサイズや形状が異なります。

ポータブル形



レバーを手前に引いてください

タンクマウント形

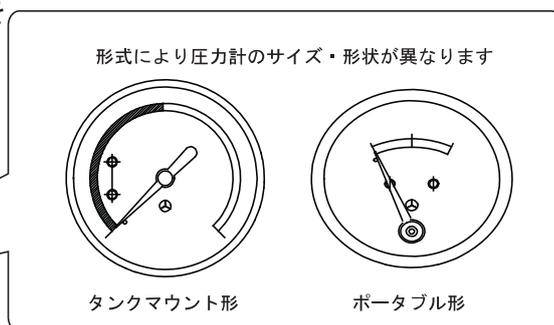
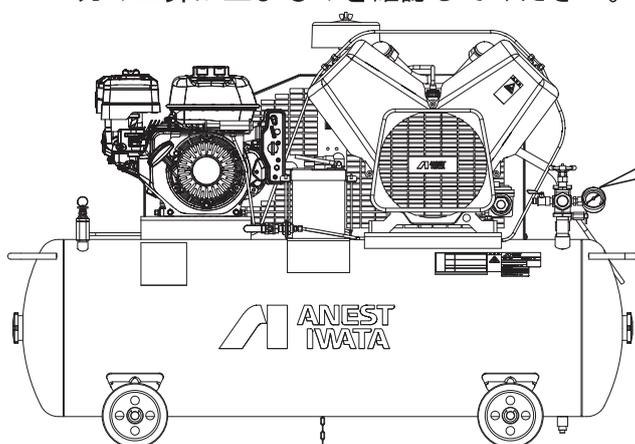


全開まで回してください

## ■ 運転制御確認

制御圧力の確認をしてください。

- ストップバルブを閉じて、空気タンクの圧力が上昇するのを圧力計で確認してください。
- 定格圧力範囲(圧力計の緑帯の上限)でアンローダが作動し、力の上昇が止まるのを確認してください。



ストップバルブを開いて、空気タンクの圧力を徐々にさげてください。

- 圧力計の針が復帰圧力まで降下した時、アンローダが作動し運転を再開することを確認してください。
- 作動圧力が20ページ『機能点検』の設定圧力より外れている時は、アンローダの設定が狂っています。20ページの『制御機器の設定圧力の調整』に従って調整してください。

## ⚠ 注意

運転中は耳栓を着用してください。  
※難聴などの障害を起こす場合があります。



耳栓の着用

## エンジン始動前の確認事項

### ① 初始動や長期保管後の始動前空運転

ご購入後、初めての運転や長期保管後の始動においてはスイッチをOFFの状態何度かリコイルを回し内部オイルを全体に循環させると始動性がよくなります。

### ② チョークレバーの調整

必要に応じ、チョークレバーはONとOFFの間で適正な位置に調整すると始動性がよくなる場合があります。チョークレバーの取り扱いについてはエンジン取扱説明書をお読みください。

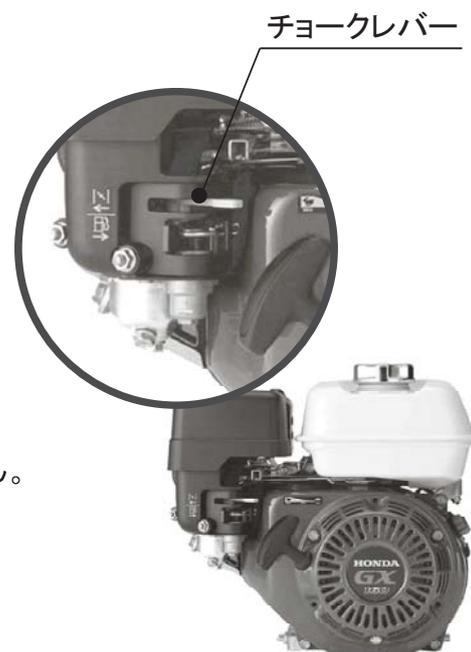
### ③ タンクの圧縮空気を抜いた状態にて始動

#### ● ポータブル形

空気タンクに圧縮空気が残っている場合には再起動ができません。空気取出口のボールバルブを全開にし、空気タンクの圧力が「ゼロ」の事を必ず確認してからエンジンを始動してください。

#### ● タンクマウント形

空気タンクに圧縮空気が残っている場合の再起動が可能です。P15・16の残圧時エンジン再始動方法をご確認ください。

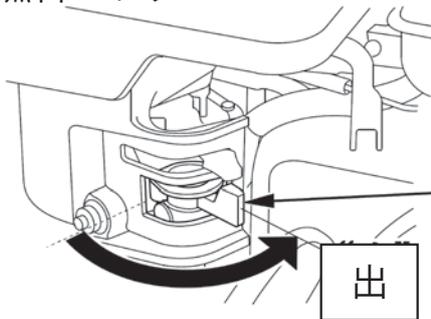


## ■エンジン始動のしかた

### お願い

空気取出口のボールバルブを全開にし、空気タンクの圧力が「ゼロ」の事を必ず確認してください。  
空気取出口のボールバルブを全開にしたままエンジンを始動してください。

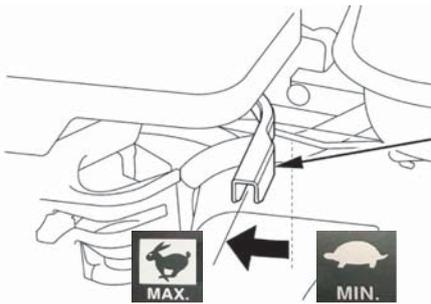
#### ① 燃料コック



燃料コック

- 燃料コックレバーを[出]の位置に合わせます。

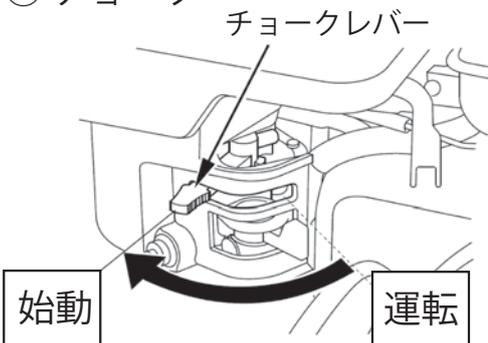
#### ② エンジン回転調整レバー



エンジン回転調整レバー

- エンジン回転調整レバーを  側の止まる場所まで移動させます。エンジン回転調整レバーは出荷時に回転数の設定を行っていますのでこの位置でのみ使用します。

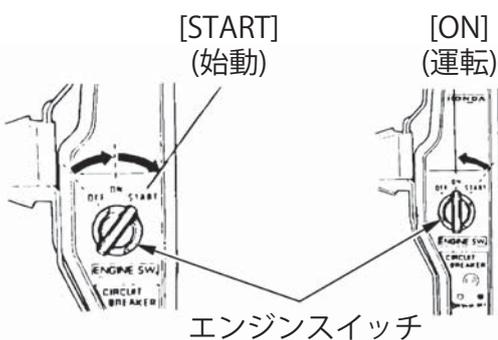
#### ③ チョーク



チョークレバー

- 寒い時はチョークレバーを[始動]側に移動させます。  
暖かい時や停止直後に再始動するときは  
チョークレバーを運転側にします。

#### ④-A エンジンスイッチ (セルスタータ付)



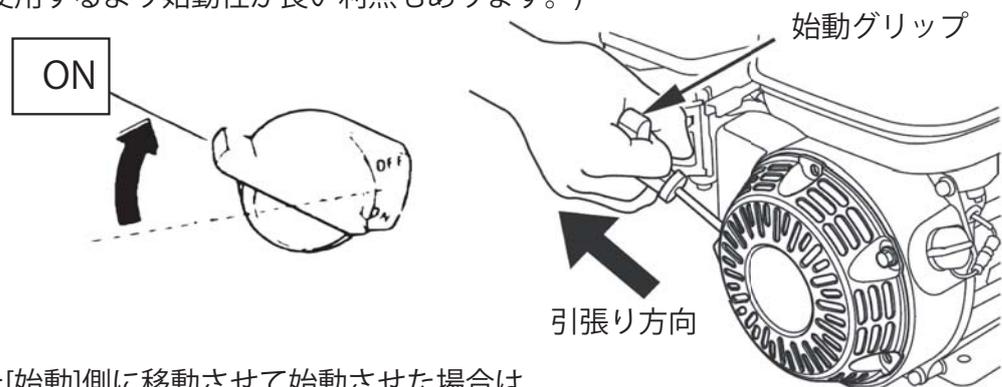
- エンジンスイッチを[START](始動)の位置まで回してエンジンを始動させてください。

5秒以上[START]にスイッチを入れないでください。

エンジンが起動したらスイッチから手を離してください。  
エンジンが始動しない場合は、10秒ほど間をあけて再始動してください。

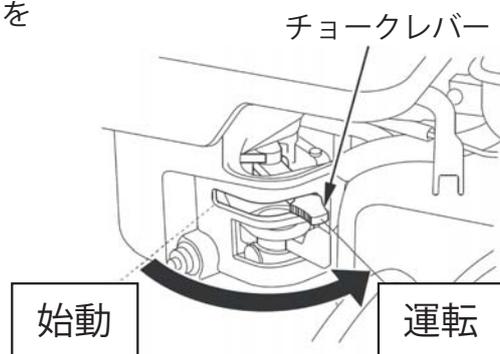
## ④-B 始動グリップ

- セルスタータ無しエンジンの始動又は、セルスタータ付でも手作業にて始動を行いたい場合は始動グリップを引くことで始動が可能です。(セルスタータを使用するより始動性が良い利点もあります。)



## ⑤ チョーク

- チョークレバーを[始動]側に移動させて始動させた場合は、エンジンの回転や排気音が安定することを確認しながら徐々に[運転]側に戻します。



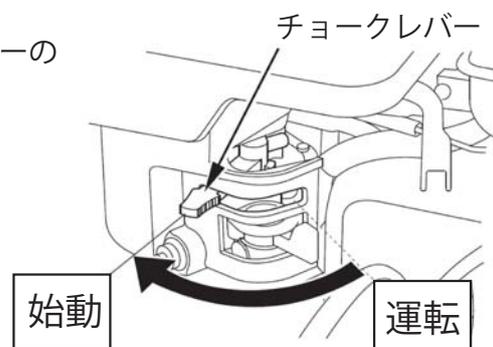
## ⑥ 暖機運転

- エンジンに負荷をかけないように空気タンクのボールバルブを開放したまま、暖気運転を2~3分実施してください。  
※本製品は周囲温度が2~40℃(運転中)の場所でご使用ください。

### エンジンが始動しにくい時は

- セルスタータ付の場合  
④-A項と同時にチョークレバーを[運転]側の位置から[始動]側に2~3秒かけて移動し、エンジンが始動するポジションを探してください。始動しない場合はそれを数回繰り返してください。
- 始動グリップ起動の場合  
④-B項の始動グリップでの始動 → チョークレバーの[始動]と[運転]の間の位置調整を数回繰り返し、エンジンが始動するポジションを探してください。
- 使用下限の温度付近で使用の場合、以下のオイルに交換してください。

エンジンオイル      5W-30  
コンプレッサオイル   出光ダフニーCS46



- 上記の操作で始動ができない場合は21ページの『故障の原因と対策』を参照してください。

# 日常運転の管理

## ■ 運転開始

### ⚠ 警告

- 運転前にレシプロコンプレッサ（給油式の場合）、エンジンの油量を確認し不足の場合は、  
レシプロコンプレッサ: アネスト岩田 純正レシプロコンプレッサオイル  
エンジン: 指定粘度オイルを給油してください。  
※破損事故の原因となります。



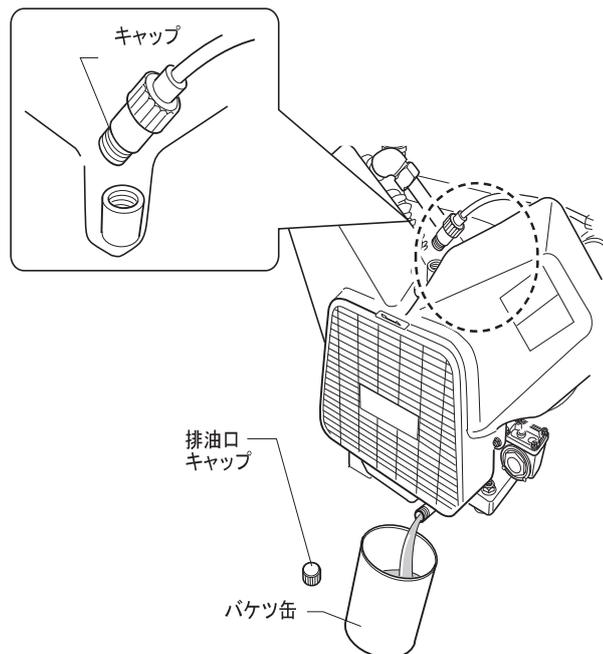
油量の確認

運転前に油量を確認し、不足している場合は、  
給油（9ページを参照）を行ってください。  
（給油式の場合）

- エンジンの潤滑油量の確認をしてください。  
（エンジンの取扱説明書参照）
- エンジンオイルが不足するとエンジンは自動的に停止します。

規定時間毎（17ページ保守点検一覧表参照）に  
潤滑油を全量交換してください。  
（給油式の場合）

- 排油作業は、空気抜きのため注油口キャップを外したうえ、  
排油口キャップを外し行ってください。



## ■ 運転中

### ⚠ 危険

- エンジンの燃料はエンジンを止めてから補給してください。  
※燃料に引火、火災の原因となります。



停止後燃料補給

運転中に異常音（カンカン音や通常と異なる音）や  
異常振動（目で見て明らかに多い、グラグラする揺れ）が  
発生した時は直ちに本機の運転を停止し、  
原因を取り除いてから運転を再開してください。



### ⚠ 警告

- 運転中に付属機器を取り外さないでください。部品が飛散しケガをする恐れがあります。
- ベルトガードを外して運転をしないでください。ベルト、プーリ、ファンに巻き込まれケガをする恐れがあります。

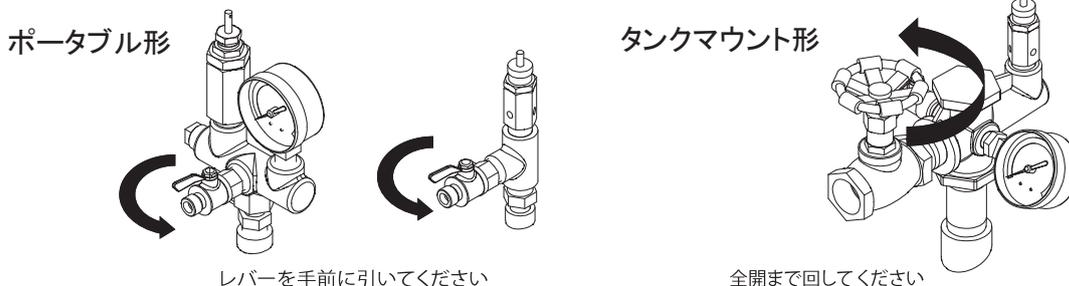


運転中の分解の  
禁止

## ■ 運転終了

作業終了後、エンジンを停止させ、空気タンク内の圧縮空気を完全に放出してください。

- エンジンの停止方法はエンジンの取扱説明書を参照してください。
- 圧力計の針上りの原因となります。



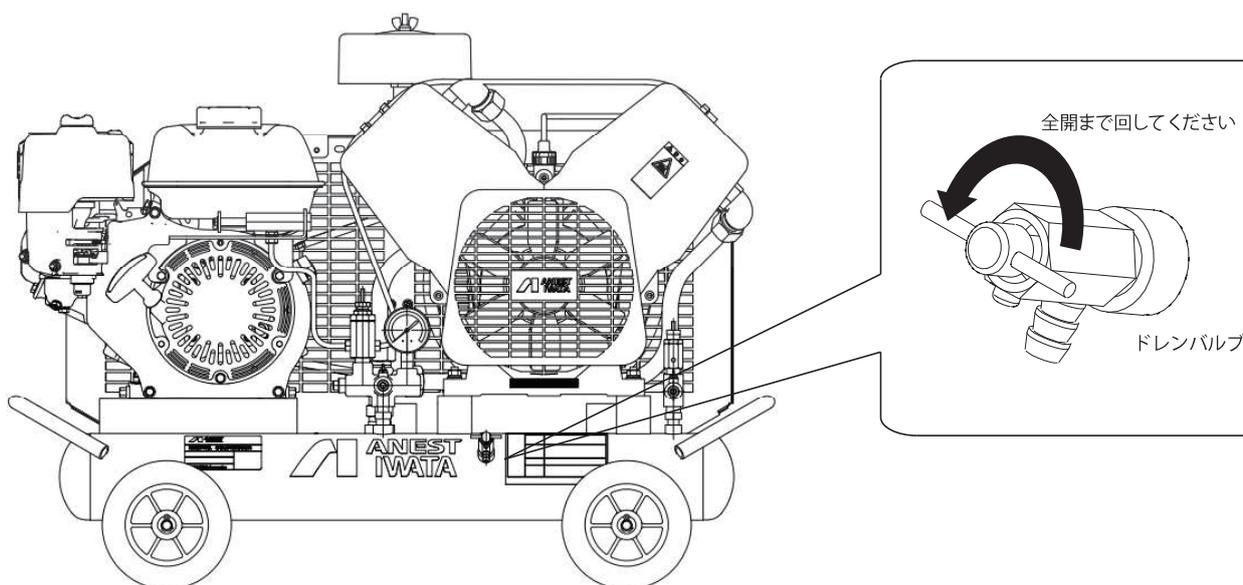
## ⚠ 注意

### 不用意なストップバルブ解放の禁止

- 製品の転倒、または周囲のものが倒れケガの原因となります。

長時間運転しない場合は、下記内容にて処置ください。

- 空気タンク内の圧縮空気及びドレン水を完全に放出してください。  
ドレン水を放出するときは、下図のドレンバルブをゆっくりひねります。  
タンクマウント形のドレンバルブ位置はP6「各部の名称」を参照してください。
- 錆・塵埃等により各 부품のシート部、摺動部不具合発生の原因となります。

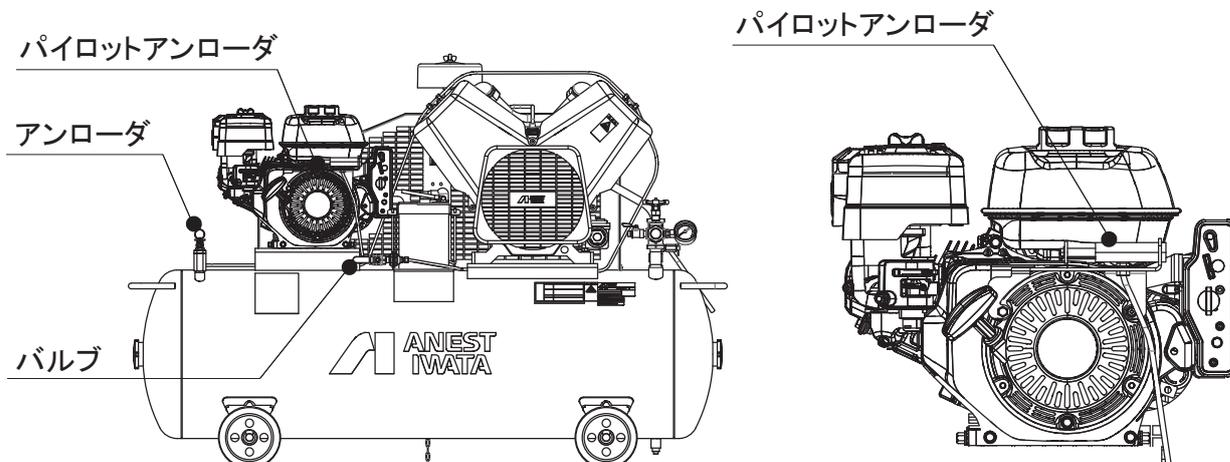


毎日、圧縮空気を抜く前にドレンバルブを操作し、空気タンク内のドレンを排出してください。

- タンク内に錆を発生させる原因となります。
- 冬季には凍結によるドレンバルブ、ドレンパイプ破損の原因となります。
- 最高圧に近い状態で一気にドレンを抜くなど、急激な圧縮空気の解放は  
周辺のものや製品の転倒を招き、事故の原因となります。
- ドレンバルブの位置はP6「各部の名称」を参照してください。

## ■ 残圧時エンジン再始動方法 TLUE22C-14S

タンク内に圧縮空気が残っている状態（残圧時）でエンジンを再始動する場合は以下の手順で行います。ただし、0.2MPa以下の残圧状態の場合はタンク内のエアを抜いてから始動してください。

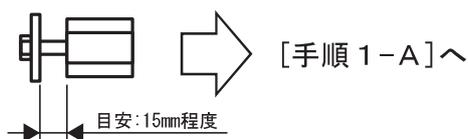


### 準備

パイロットアンローダの作動状態（下図）を確認してください。パイロットアンローダはエンジンの燃料タンクとリコイルの間に位置します。

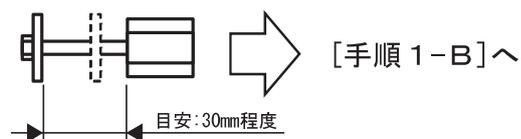
#### ・作動中

アンローダの先端が収縮状態



#### ・開放状態

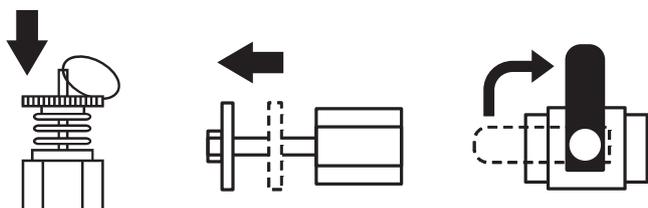
アンローダの先端が伸びている状態



### 手順 1 パイロットアンローダの開放

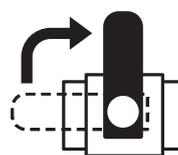
#### [手順 1-A]

アンローダの心棒を上から押します。心棒を押すとパイロットアンローダのロッドが可動します。（収縮していたロッドが元に戻る動作）ロッドの可動を確認後、バルブを閉めます。



#### [手順 1-B]

すでにパイロットアンローダが開放されているのでバルブを閉めます。その後、手順2となります。



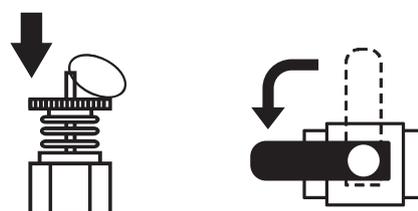
### 手順 2 エンジン始動

アンローダ上部のリングを真上に引いた状態でセルスタータのスイッチを回しエンジンをかける。



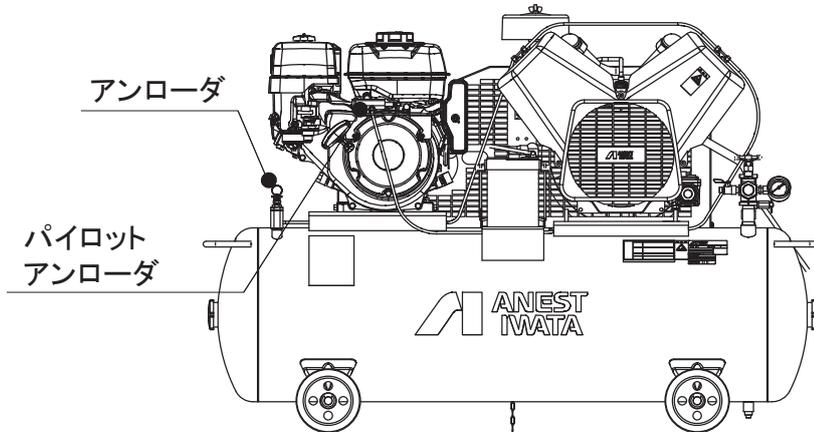
### 手順 3 運転開始後

アンローダの心棒を上から押し、バルブを開けます。



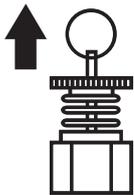
## ■ 残圧時エンジン再始動方法 TLUE37C-14S

タンク内に圧縮空気が残っている状態（残圧時）でエンジンを再始動する場合は以下の手順で行います。  
ただし、0.2MPa以下の残圧状態の場合はタンク内のエアを抜いてから始動してください。



### 手順 1 エンジン始動

アンローダ上部のリングを真上に引いた状態でセルスタータのスイッチを回しエンジンをかける。



セルスタータ  
スイッチ

### 手順 2 運転開始後

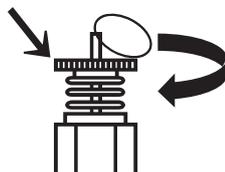
アンローダの心棒を上から押します。



### 暖機運転が必要な場合 対象形式：TLUE22C-14S、TLUE37C-14S

アンローダの心棒に取り付けてあるハンドル（円盤）を時計回りにねじ込み無負荷状態を継続します。

ハンドル（円盤）



暖機運転が完了したらハンドル（円盤）を戻します。

# 保守・点検

次の点検項目を定期的実施してください。

点検は時間又は期間のいずれか早く到達した時点で実施してください。

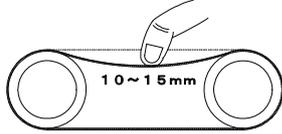
また、表に掲げた点検は標準的な使用の場合です。

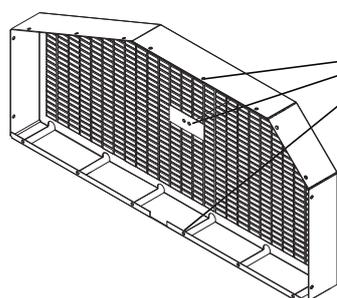
使用条件が過酷な場合は点検時期を早めてください。

点検要領欄の※は、お客様において処理することが難しい内容ですので、購入先販売店、または、当社支店・営業所に連絡してください。

## ■保守・点検一覧表

(エンジンについてはエンジンの取扱説明書を参照してください。)

点検項目	点検整備時間				点検要領
	毎日	200時間毎 1ヶ月毎	1200時間毎 6ヶ月毎	2500時間毎 1年毎	
潤滑油量確認 (給油式の場合)	●				9ページ参照
空気タンクの ドレン抜き	●				14ページ参照
アンローダの 作動圧力確認	●				作動圧力は20ページ参照 異常のある場合は、調整又は交換※
異常振動・異常音	●				異常のある場合は、21ページを参照
ボルト・ナット・ ネジ類の緩み		●			適正な工具で各部を増締め
ベルトの張り 加減と傷み		●			ベルトガードを外し点検確認 ベルトの張り加減を確認 スパン中央部を軽く押さえ、 10～15mm程へこむ位に調整してください。  緩みのある場合は、エンジンを スライドさせて調整。 ベルトの消耗、傷みのある場合は交換※
吸込フィルタ		●			吸込口セットからフィルタを取り出し、 エア吹きにより粉塵を除去。 汚れがひどい場合は交換。
潤滑油交換 (給油式の場合)		● 初回のみ	●		13ページ参照



ベルトガード固定ネジ

ベルトの点検を実施する際は左図部のネジを取り外してください。

中央部 : M6 アブセットボルト

外周、下部 : M6 タッピンネジ

点検項目	点 検 整 備 時 間				点検要領
	毎日	200時間毎 1ヶ月毎	1200時間毎 6ヶ月毎	2500時間毎 1年毎	
圧縮空気の漏れ				●	タンクマウント形は最高圧力で30分間放置し圧力降下が最高圧力の15%以内であることを確認(ポータブル形は10分間) 洩れ音や圧力降下が多い場合は、点検・整備※
総合分解点検	吐出管・ジョイント			●	清掃または新品と交換※ (分解時にシート部分を傷付けないよう注意)
	弁・シリンダカバー			●	
	ピストンリング ピストン シリンダ 注1			●	潤滑油の消費量が多い場合 ピストンリング3本組で交換※ オイルフリー式はピストンリングの幅の一部が2.5mm以下の場合は交換※  ピストン・シリンダの摺動面に大きな傷や段付摩耗ある場合は新品と交換※
	回転摺動部			●	軸受部の異常確認 クランク軸ピン部の摩耗点検 異常があれば新品と交換※
	シリンダカバーの アンローダピストン部			●	摺動部の摩耗、Oリングの摩耗 グリース劣化等 異常があれば新品と交換※注3
	弁セット部のパッキン			●	劣化(ゴムの弾力がない場合)や 変形があれば新品と交換※
	配管部品・ゴムホース 樹脂チューブ			●	硬化、ひび割れなどあれば 新品と交換。
注2 空気タンクの点検	空気タンク			●	胴、鏡板等の腐れ、漏れ、 ふくれの有無を点検。 検査用蓋を外し清掃。
	安全弁			●	動作と漏れの確認。
	圧力計			●	圧力計の指針がゼロの時、タンク付属の ストップバルブを開放し指針ゼロを確認。

注1. シリンダを外した場合は、シリンダとクランク室のパッキン面の付着物を完全に除去したうえで、液状ガスケットをシリンダの下面に均一に塗布し組み付けてください。(給油式の場合)

注2. 法令により事業者は、使用開始後1年以内毎に1回、空気タンクの点検事項を自主検査し、その結果を最低3年間は記録保存しなければならない。(記録用紙は本取扱説明書の23ページに添付してあります)  
但し、空気タンクの容量が40L未満の場合は法的義務はありませんが、安全上から実施してください。

注3. その他消耗部品(P24~34の部品表に記載)についても、点検整備時に異常あれば新品と交換してください。  
エンジンの消耗品については最寄りの販売店または当社支店・営業所までお申し付けください。

## ⚠ 警 告

●コンプレッサを運転中にベルト張力の確認等、コンプレッサの分解が伴う作業は行わないでください。

ベルト、プーリ、ファンに手や工具等が巻き込まれケガをするおそれがあります。



**運転中の作業の  
禁止**

# 保守・点検

## ■分解上の注意

### ⚠ 警告

空気タンク内の圧縮空気を完全に抜いてから作業をしてください。  
※分解時、部品が飛んでケガをする場合があります。

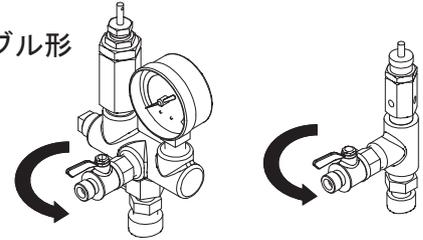


圧縮空気を放出する

空気タンク内の圧縮空気を完全に抜いてから作業を行ってください。  
分解した部品は分解順序に従って並べておくと組立作業を楽に行うことができます。

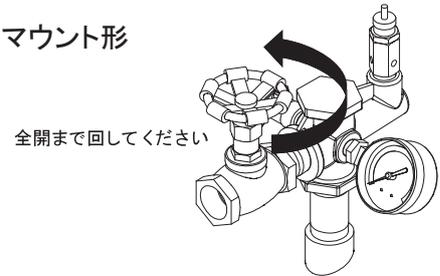
- 各 부품の摺動面・パッキン面・はめ合い部分を傷つけたり、変形させないよう取り扱いには十分気をつけてください。
- 羽根(樹脂ファン)の部分を掴んで、ボルトを締めたり緩めたり、また回転させたりしないでください。  
※ファンの破損事故を起こす場合があります。

ポータブル形



レバーを手前に引いてください

タンクマウント形



全開まで回してください

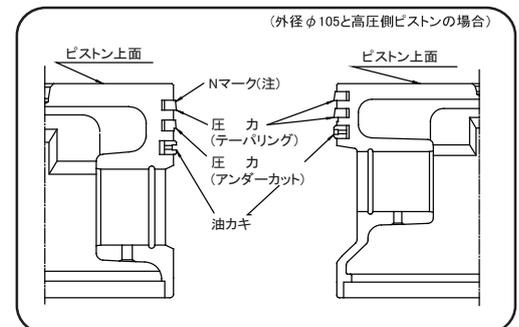
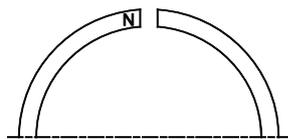
## ■組立上の注意 (給油式の場合)

各部品は揮発油などで清掃し、完全に乾燥させてから組み付けてください。

ピストンリングは順序と上下方向の間違いのないようピストンに組み込みをしてください。

※注意:ピストンリングを

ピストンに組み込みの際は、必ず”Nマーク”の刻印を上にして組み込んでください。



摺動部にはアネスト岩田レシプロコンプレッサオイルを十分に塗布してください。  
クランク室に組み付ける、軸受箱およびシリンダの取り付け面には液状ガスケットを均一に塗り、取り付けてください。シリンダは組み付けた後、横に滑らないようすぐにボルトで固定してください。

組み付け完了後、手でプーリを回し、軽く回ることを確認してアネスト岩田レシプロコンプレッサオイルを忘れずに入れてから運転を開始してください。

## ■オイルフリー本体 取扱上の注意

オイルフリーレシプロコンプレッサに使用されているコンポジットピストンは、使用後も効率低下を最小限に防ぐため、自己膨張性を持った特殊熱硬化成樹脂を使用しています。使用時間が極端に少ない場合(1.5時間/日、40時間/月以下)は、当社支店・営業所までご連絡願います。

## ■ 部品の購入について

部品をご購入の際は、本機の形式と立体分解図の部品表を参考にして、  
 ご必要な部品名と部品番号をご指定のうえ、購入先販売店・サービス店または、  
 当社支店・営業所にお申し付けください。

## ■ 機能点検

圧力制御機器の設定圧力

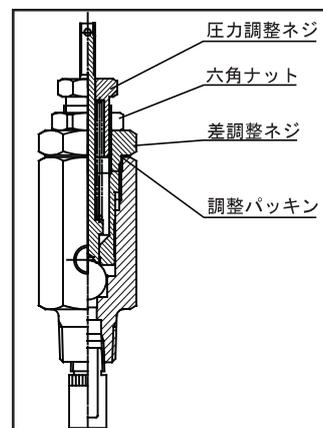
アンローダ、安全弁の設定圧力は下表のとおりです。

設定圧力 MPa		最高圧力 MPa	
		1. 0	1. 4
アンローダ	作動圧力 (圧縮運転を止める)	1. 0	1. 4
	復帰圧力 (圧縮運転を始める)	0. 8	1. 15
安全弁	吹き出し圧力	1. 08	1. 48

## ■ 制御機器の設定圧力の調整

アンローダの設定圧力に異常があるとき時には、  
 次の要領で調整してください。

調整内容		調整方法	備考
圧力の 高低調整	最高圧力を高く する場合	圧力調整ネジを 締め込む	圧力調整ネジは六角 ナットでロックして あります。 ロックを外して調整 を行ってください。
	最高圧力を低く する場合	圧力調整ネジを 緩める	
圧力の差 (作動圧力幅) 調整	圧力差を広くする 場合	調整パッキンを抜 いて増締めをする	専門のサービス店で 処理することが 望ましい調整です。
	圧力差を狭くする 場合	調整パッキン部に 薄い紙パッキンを 加える	



## 🏠 お願い

安全弁は特に重要な安全装置ですので、調整が必要な場合はアネスト岩田コンプレッサ(株)支店・営業所に  
 連絡してください。

# 故障の原因と対策

- 万一異常が起こった場合には、下表を参考にご活用ください。  
対策欄の※印は、お客様において処理することが難しい内容ですので、  
購入先販売店または、当社支店・営業所に連絡してください。

故障の状態	原因	対策
始動しない	エンジンオイル不足(オイルアラート)	エンジンオイルの補充
	燃料不足	ガソリンの補充
	燃料コックが閉じている	燃料コックをひらく
	周囲温度低温(2℃未満)	エンジンオイルを5W-30に交換
		コンプレッサオイルは出光ダフニーCS46に交換
	チョークレバー調整不適	チョークレバーの調整
	圧縮空気が残っている	残圧解放の後、再始動
	バッテリー電圧低下	バッテリー交換
	スイッチがOFFになっている	スイッチをONにする
	エンジンの不良	エンジンの取扱説明書を参照
新品と交換 ※		
圧力が上がらない 又は圧力の上昇に 時間がかかる	ストップバルブ、ドレンバルブの締め忘れ	締め直す
	各締付部および配管部の漏れ	漏えい部を修理
	安全弁からの漏れ	新品と交換
	弁部の不良	清掃または新品と交換 ※
	ピストンリングの摩耗	新品と交換 ※
	圧力計の異常	新品と交換
	吸込口フィルタの目づまり	フィルタの清掃または交換
異常振動または 異常音がする	据付不良	水平に据付(車輪の下に敷物をする)
	コンプレッサ(本体)内部の摩耗	修理 ※
	部品の緩み	部品取付ネジの締め直し
	エンジンの不良・劣化	修理 ※
スローダウン時 エンジン停止	エンジンが冷えている	暖機運転の実施
	エアクリーナの目づまり	エアクリーナの清掃または交換
	エンジンの不良・劣化	新品と交換 ※

# 周辺機器の購入について

- 本機をより一層、ご活用していただくために、次の周辺機器を取り揃えてあります。目的に合わせてご使用ください。詳細は購入先販売店または、最寄りの当社支店・営業所へお問い合わせください。

要求される条件	周辺機器の名称
圧縮空気中のドレンと オイルミストを除去する	クリーンエアー機器
一定の圧力を得る	エアートランスホーム
	減圧弁
圧縮空気を瞬時に多量に使う	補助空気タンクセット

# 第二種圧力容器点検記録

● 圧力容器安全規制

定期自主検査

・使用者は毎年1回以上、次の事項について定期自主検査を行い、その結果を記録し3年間保管してください。

- ① 空気タンク本体の損傷の有無
- ② ふたの締め付けボルトの摩耗（ふたの無い構造もあります）
- ③ 管および弁（ボールバルブ、安全弁）の損傷の有無

空気タンクの第二種圧力容器明細書は再発行できません。大切に保管してください。

点検年月日 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1.胴・鏡板					
	2.安全弁					
	3.圧力計					
ふ た						
管及び弁の損傷						

点検年月日 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1.胴・鏡板					
	2.安全弁					
	3.圧力計					
ふ た						
管及び弁の損傷						

点検年月日 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1.胴・鏡板					
	2.安全弁					
	3.圧力計					
ふ た						
管及び弁の損傷						

点検年月日 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1.胴・鏡板					
	2.安全弁					
	3.圧力計					
ふ た						
管及び弁の損傷						

注)記録用紙が満杯になった場合は、同内容の記録表を作成し引き続き記録してください。

# 立体分解図

## ■レシプロコンプレッサ (本体) F07-10

### ●部品表

番号	部品名	個数
1	シリンダ	1
6	シリンダカバー	1
17-1	エルボユニオン	1
17-2	スリーブ	1
17-3	袋ナット	1
18	アンローダキャップ	1
24	バネガイドセット	1
27	座金組込ボルト	4

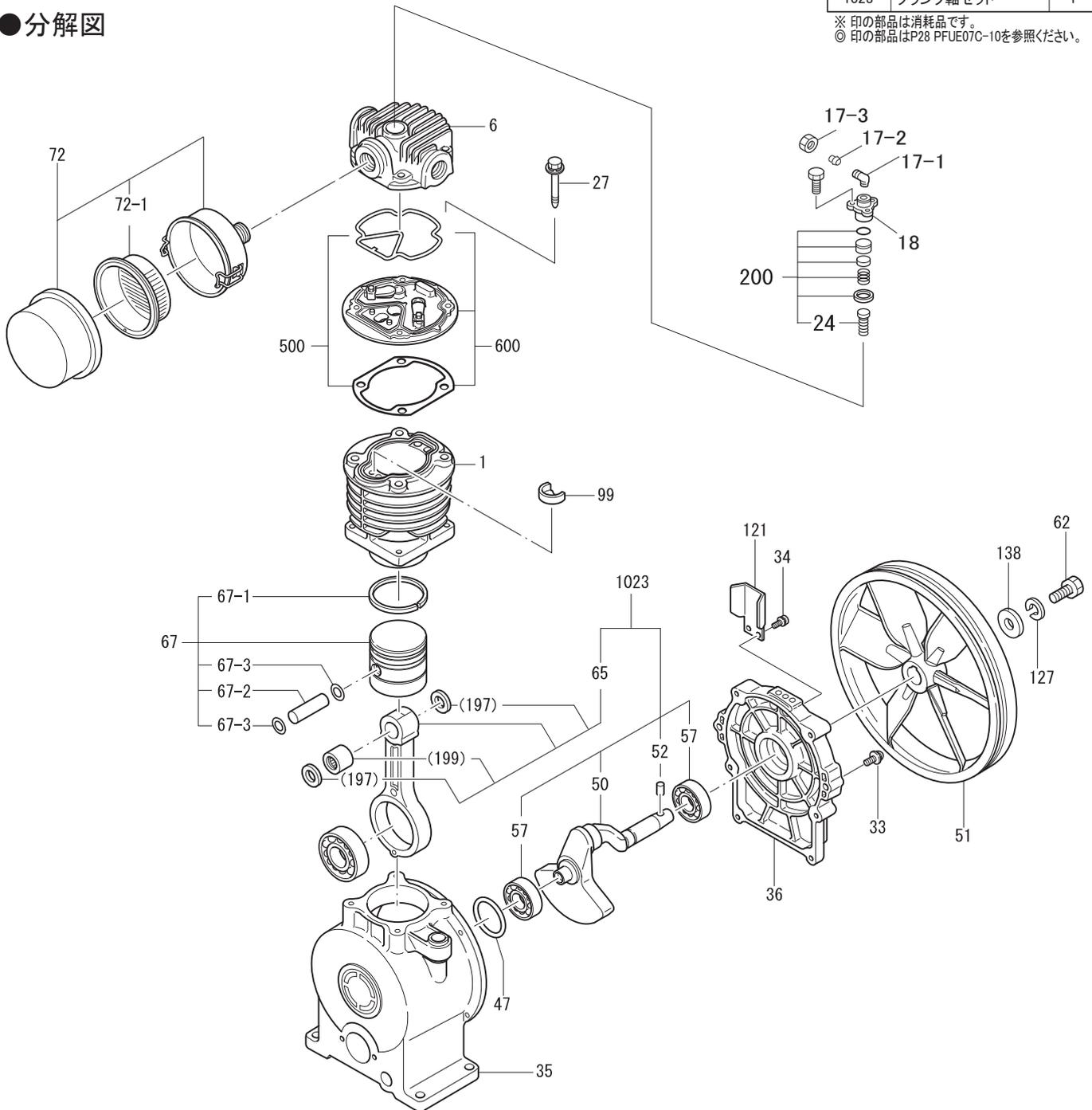
番号	部品名	個数
33	座金組込ボルト	4
34	座金組込ボルト	4
35	クランク室	1
36	軸受箱	1
※47	ゴム棒	1
50	クランク軸	1
◎51	フライホイールプーリ	1
52	平行ピン	1

番号	部品名	個数
57	ラジアル玉軸受	2
62	高力六角ボルト	1
65	連接棒	1
67	ピストンセット	1
※67-1	ピストンリング	1
67-2	ピストンピン	1
※67-3	オリング	2
72	吸込口セット	1

番号	部品名	個数
※72-1	フィルター	1
84	タッピンネジ	2
99	シート	1
121	ダストカバー	1
137	バネ座金	1
138	平座金	1
※200	アンローダセット	1
500	弁パッキンセット	1
600	パッキン付き弁セット	1
1023	クランク軸セット	1

※ 印の部品は消耗品です。  
◎ 印の部品はP28 PFUE07C-10を参照ください。

### ●分解図



( ) 部品の供給はセット構成部品として一括供給致します。

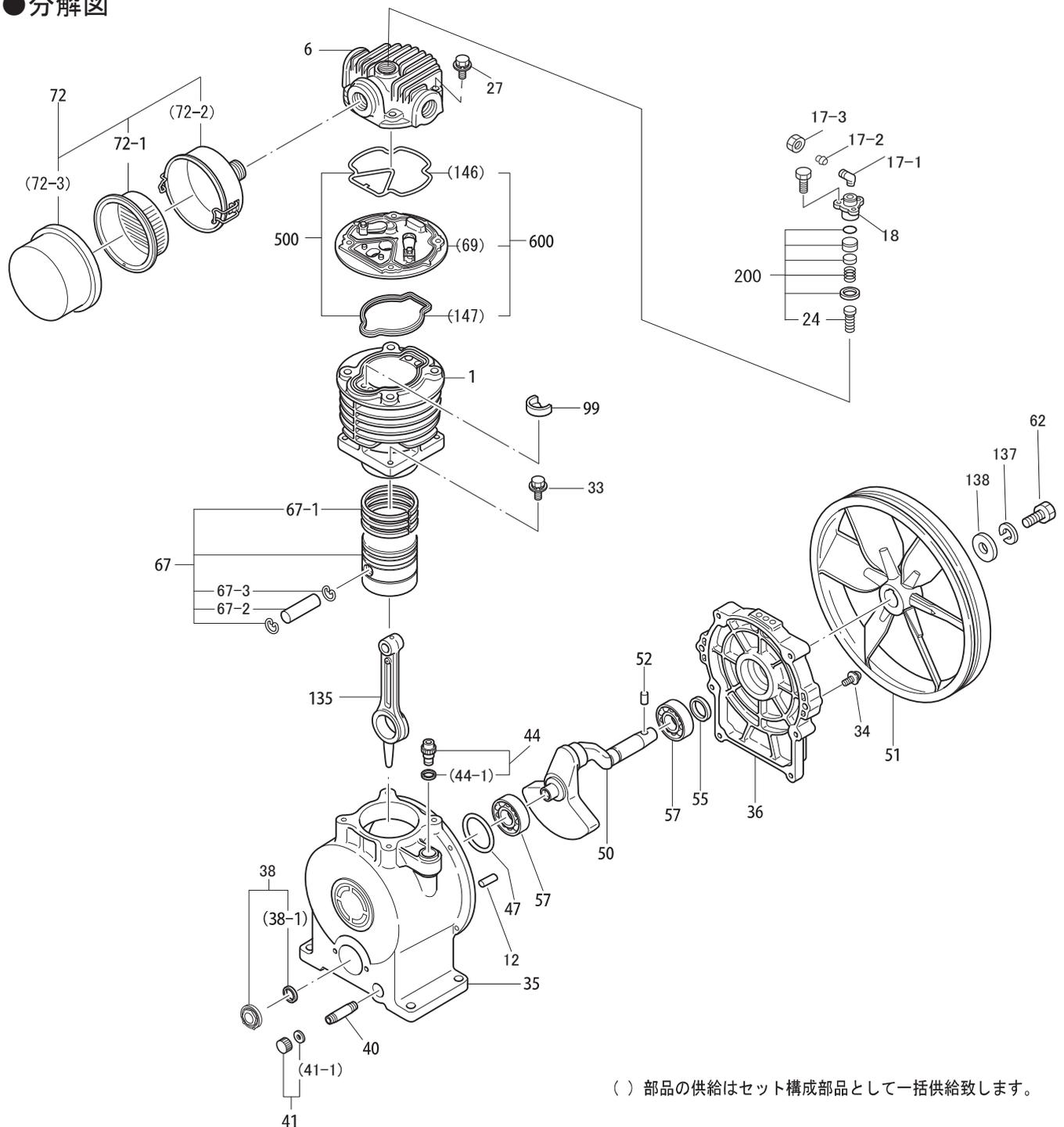
# 立体分解図

## ■レシプロコンプレッサ (本体) L15-10

### ●部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ	1	34	座金組込ボルト	4	◎51	フライホイールプーリ	1	72	吸込ロセット	1
6	シリンダカバー	1	35	クランク室	1	52	平行ピン	1	※72-1	フィルター	1
17-1	エルボユニオン	1	36	軸受箱	1	※55	オイルシール	1	99	シート	1
17-2	スリーブ	1	※38	油量計セット	1	57	ラジアル玉軸受	2	135	連接棒	1
17-3	袋ナット	1	40	オイル抜きパイプ	1	62	高力六角ボルト	1	137	バネ座金	1
18	アンローダキャップ	1	41	オイル抜きメクラブタセット	1	67	ピストンセット	1	138	平座金	1
24	バネガイドセット	1	44	ブリーザセット	1	67-1	ピストンリングセット	1	※200	アンローダセット	1
27	座金組込ボルト	4	※47	ゴム棒	1	67-2	ピストンピン	1	500	弁パッキンセット	1
33	座金組込ボルト	4	50	クランク軸	1	67-3	止め輪	2	600	パッキン付き弁セット	1

### ●分解図



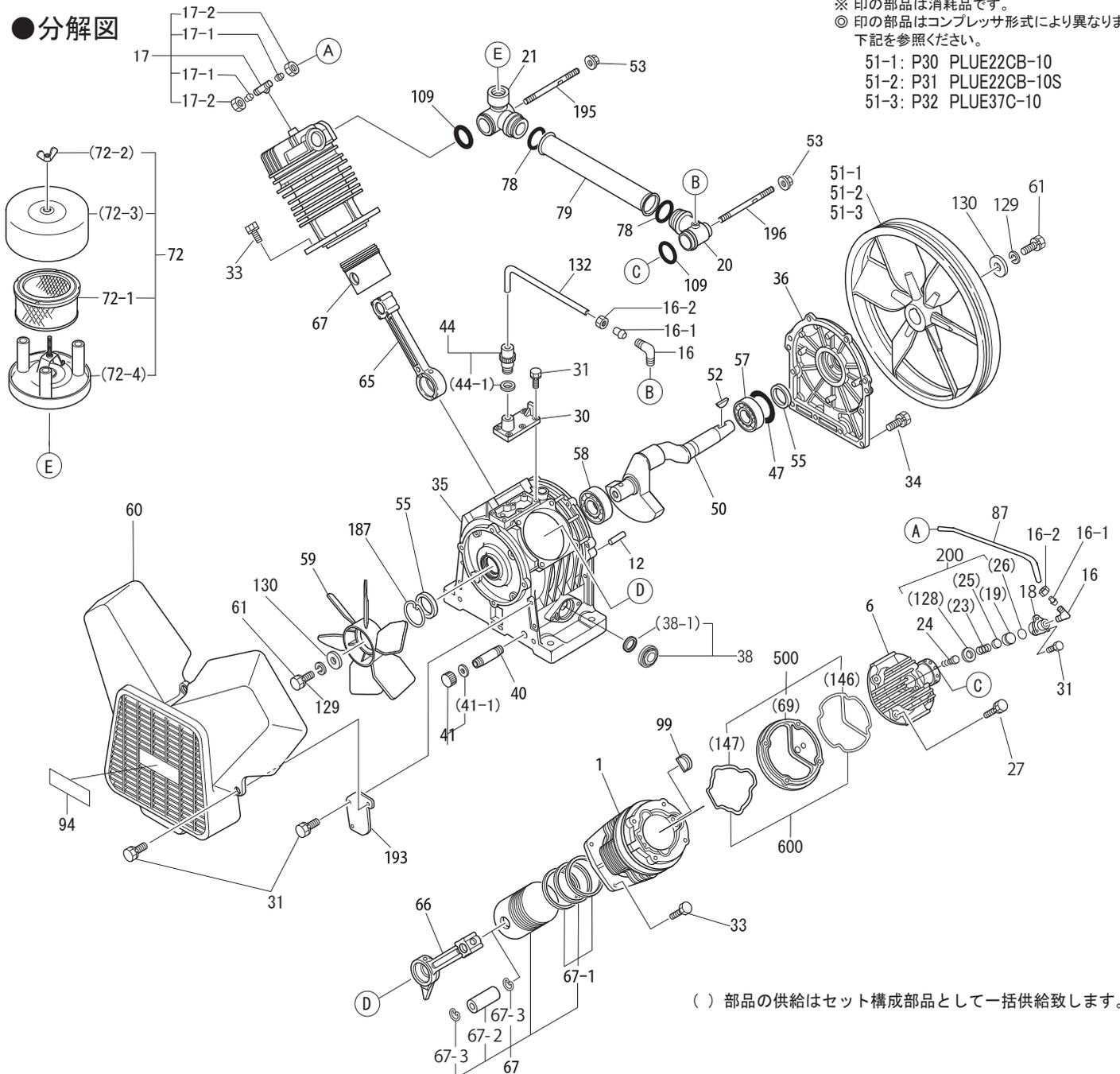
# 立体分解図

## ■レシプロコンプレッサ (本体) L222-10、L224-10

### ●部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ	2	33	座金組込ボルト	8	57	ラジアル玉軸受	1	94	形式銘板	1
6	シリンダカバー	2	34	座金組込ボルト	10	58	ラジアル玉軸受	1	※99	シート	2
12	平行ピン	2	35	クランク室	1	※59	ファン	1	※109	Oリング	2
16	エルボユニオン	2	36	軸受箱	1	60	本体カバー	1	129	バネ座金	2
16-1	スリーブ	2	※38	油量表セット	1	61	高力六角ボルト	2	130	平座金	2
16-2	袋ナット	2	40	オイル抜きパイプ	1	65	連接棒	1	132	リターンパイプ	1
17	チーズユニオン	1	※41	オイル抜きメクラブタセット	1	66	連接棒セット	1	187	リティナ	1
17-1	スリーブ	4	44	ブリーザセット	1	67	ピストンセット	2	193	ファンガード	2
17-2	袋ナット	4	47	ゴム棒	1	※67-1	ピストンリングセット	2	195	ボルト(1)	1
18	アンローダキャップ	2	50	クランク軸	1	67-2	ピストンピン	2	196	ボルト(2)	1
20	吸込ロジョイント(1)	1	◎51-1	フライホイールプーリ (PLUE22CB-10)	1	67-3	止め輪	4	※200	アンローダセット	2
21	吸込ロジョイント(2)	1	◎51-2	フライホイールプーリ (PLUE22CB-10S)	1	72	吸込ロセット	1	※500	パッキンセット	2
24	パネガイドセット	2	◎51-3	フライホイールプーリ (PLUE37C-10)	1	※72-1	フィルター	1	600	パッキン付弁セット	2
27	座金組込ボルト	8	52	半月キー	1	※78	Oリング	2			
30	ブリーザフランジ	1	53	フランジ付六角ナット	2	79	吸込パイプ	1			
31	アップセットボルト	19	※55	オイルシール	2	87	アンローダパイプ	1			

### ●分解図



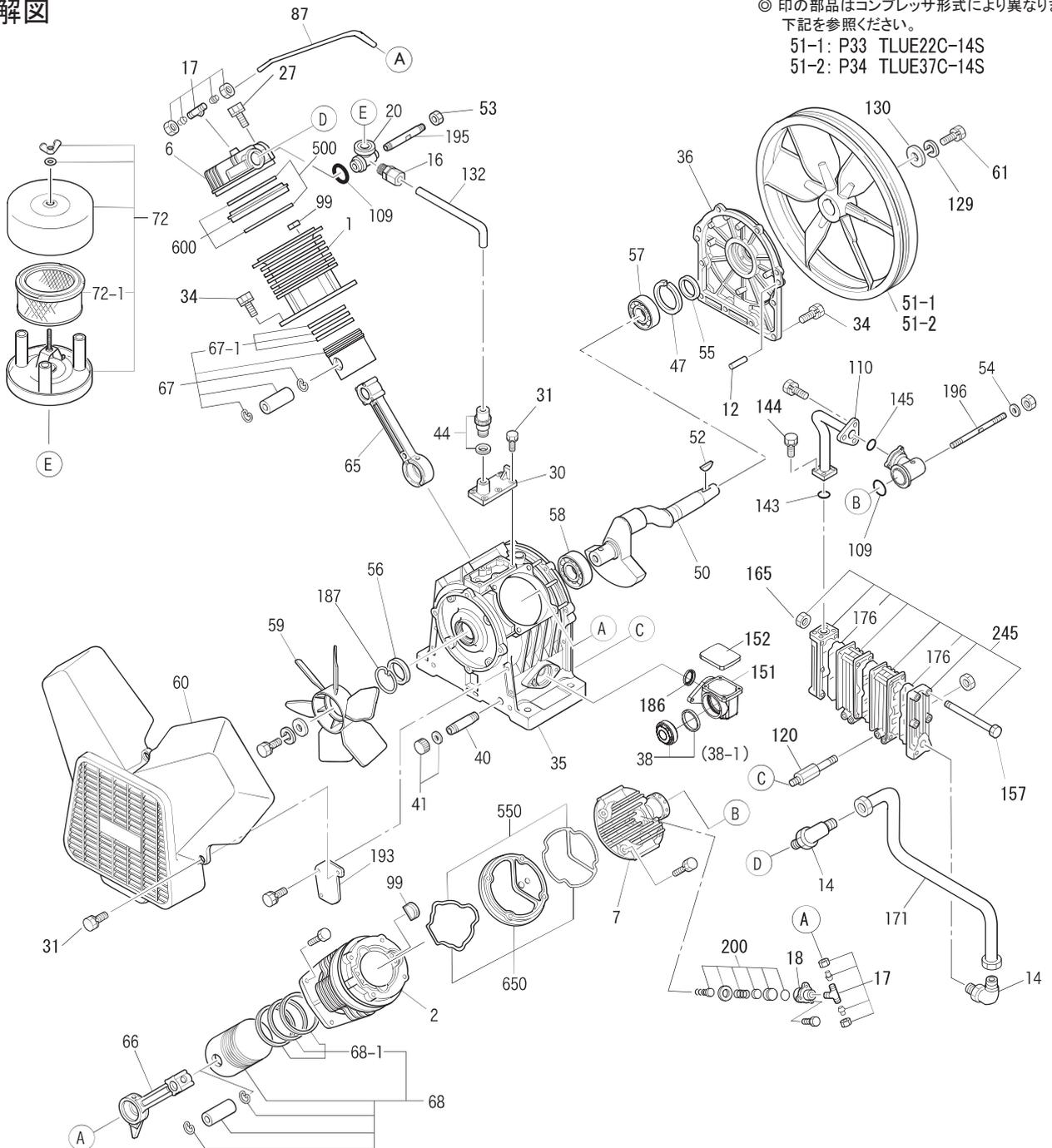
# 立体分解図

## レシプロコンプレッサ (本体) L222-14、L372-14

### ● 部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ (LP)	1	36	軸受箱	1	65	連接棒セット (LP)	1	※104	オートドレンセット	1
2	シリンダ (HP)	1	※38	油量計セット	1	66	連接棒セット (HP)	1	105	水分離容器	1
6	シリンダカバー (LP)	1	40	オイル抜パイプ	1	67	ピストンセット (LP)	1	108	水分離容器フランジ	1
7	シリンダカバー (HP)	1	※41	オイル抜盲蓋セット	1	※67-1	ピストリングセット (LP)	1	※109	Oリング	1
12	平行ピン	2	44	ブリーザセット	1	67-2	ピストンピン	1	110	冷却器パイプ	2
14	特殊エルボ	2	47	ゴム棒	1	67-3	リテナ	2	※113	Oリング	1
16	ハーフユニオン	1	50	クランク軸	1	68	ピストンセット (HP)	1	117	ハーフユニオン	1
17	チーズユニオン	2	◎51-1	フライイールプーリ (TLUE22C-14S)	1	※68-1	ピストリングセット (HP)	1	118	チーズユニオン	1
17-1	スリーブ	4	◎51-2	フライイールプーリ (TLUE37C-14S)	1	68-2	ピストンピン	1	120	ボルト	2
17-2	袋ナット	4	52	半月キー	1	68-3	リテナ	2	129	ハネ座金	2
18	アンローダキャップ	2	53	フランジ付六角ナット	9	72	吸込ロセット	1	130	平座金	2
20	吸込ロジョイント	1	※54	シール座金	1	※72-1	フィルター	1	132	リターンパイプ	1
24	ハネガイドセット	2	※55	オイルシール	1	87	アンローダパイプ	1	※143	Oリング	1
27	座金組込ボルト	10	※56	オイルシール	1	88	アンローダパイプ (2)	1	144	アップセットボルト	8
30	注油ロジョイント	1	57	ラジアル玉軸受	1	94	形式銘板	1	※145	Oリング	1
31	アップセットボルト	26	58	ラジアル玉軸受	1	※99	シート	1	151	油量計アダプタ	1
33	座金組込ボルト	8	※59	ファン	1	※101	Oリング	3	※156	アダプタ蓋パッキン	1
34	座金組込ボルト	10	60	本体カバー	1	※101	Oリング	3	157	六角ボルト	6
35	クランク室	1	61	高力六角ボルト	2	102	キャップ	1	165	六角ナット	6
									171	接続管セット (1)	1
									173	冷却器本体	2
									174	冷却器フランジ (1)	1
									175	冷却器フランジ (2)	1
									176	冷却器パッキン	3
									186	アダプタパッキン	1
									187	リテナ	1
									193	ファンガード	2
									195	ボルト (1)	1
									196	ボルト (2)	1
									※200	アンローダセット	2
									400	レベルスイッチセット	1
									※500	パッキンセット (LP)	2
									※550	パッキンセット (HP)	1
									600	ハック付弁セット (LP)	2
									650	ハック付弁セット (HP)	1

### ● 分解図



※ 印の部品は消耗品です。  
◎ 印の部品はコンプレッサ形式により異なります。  
下記を参照ください。

51-1: P33 TLUE22C-14S  
51-2: P34 TLUE37C-14S

( ) 部品の供給はセット構成部品として一括供給致します。

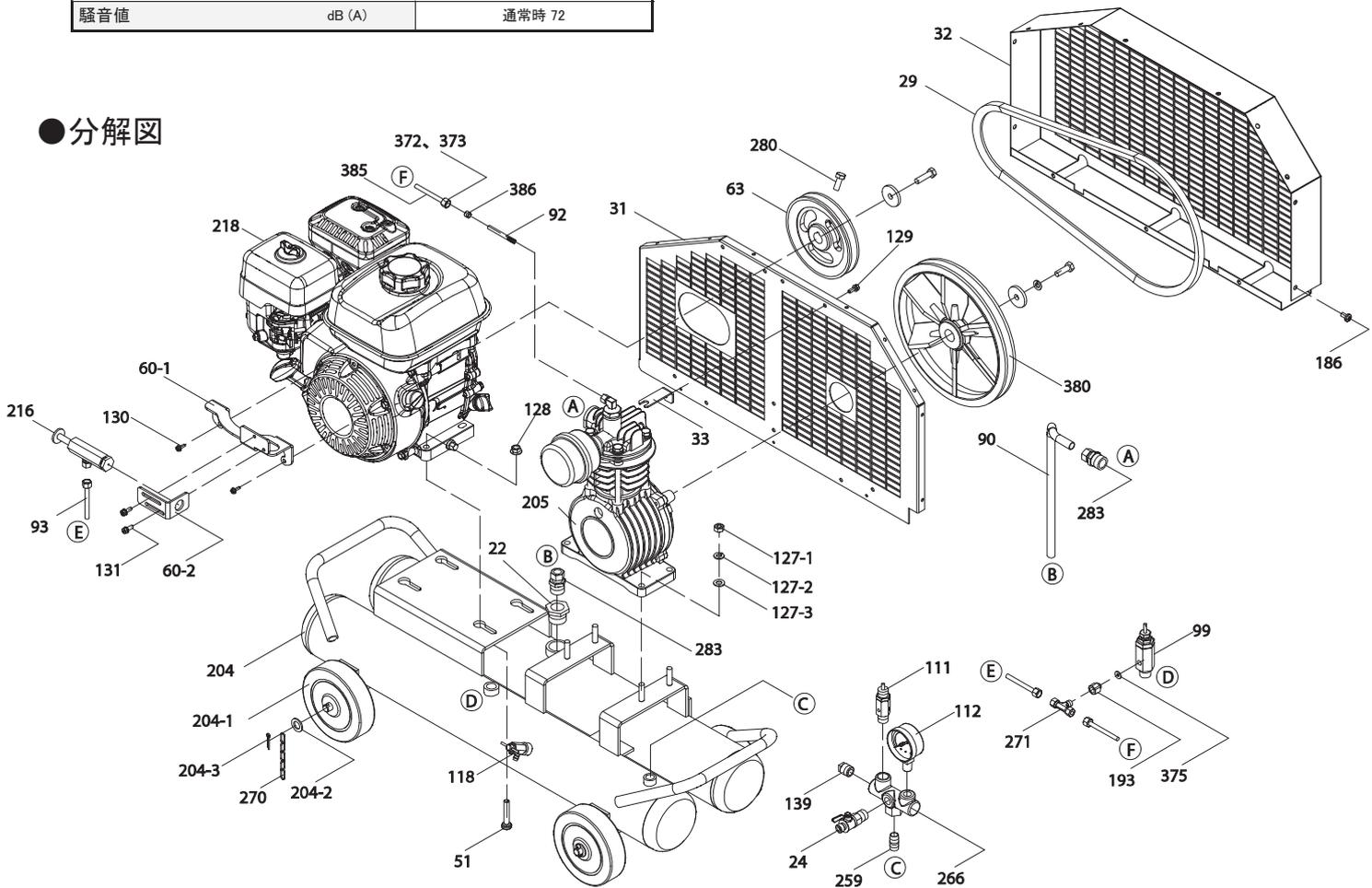
# 立体分解図

## レシプロコンプレッサ

### 仕様

形式	PFUE07C-10	
レシプロコンプレッサ(本体)形式	F07-10	
運転制御形式	アンローダ制御(減速機能付)	
出力	kW (PS)	1.0
回転速度	min <sup>-1</sup>	1640
吐出し空気量	L/min	80
吐出し圧力	MPa	1.0
空気タンク容量	L	11
空気出口管径	1/4(ボールバルブ)×1個	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	mm	840×369×545
質量	kg	44
騒音値	dB (A)	通常時 72

### 分解図



番号	部品名称	個数
22	ブッシュ	1
24	ボールバルブ	1
29	Vベルト	1
31	ベルトガード(1)	1
32	ベルトガード(2)	1
33	ガード吊りステー	1
51	ボルト	4
60-1	PU ステー(1)	1
60-2	PU ステー(2)	1
63	エンジンブリー	1
90	接続管セット	1
92	アンローダパイプ	1

番号	部品名称	個数
93	ナイロンチューブ	1
99	アンローダ	1
111	安全弁	1
112	圧力計	1
118	ドレンバルブ	1
127-1	六角ナット	4
127-2	ばね座金	4
127-3	平座金	4
128	フランジ付六角ナット	4
129	アブセットボルト	5
130	アブセットボルト	2
131	アブセットボルト	2

番号	部品名称	個数
139	プラグ	1
186	タッピングネジ	13
193	ジョイント	1
204	空気タンクセット	1
204-1	ソリッドタイヤ	4
204-2	座金	4
204-3	割リピン	4
205	レシプロコンプレッサ(本体)	1
216	パイロットアンローダ	1
218	エンジン(GX120T2SAJ1)	1
259	パレルニップル	1
266	分岐ジョイント	1

番号	部品名称	個数
270	鎖	1
271	チーズユニオン	1
280	高力六角ボルト	1
283	ハーフユニオン	2
372	スリーブ	1
373	袋ナット	1
375	パッキン	1
380	フライホイールブリー	1
385	アンローダパイプ(2)	1
386	ストレートユニオン	1

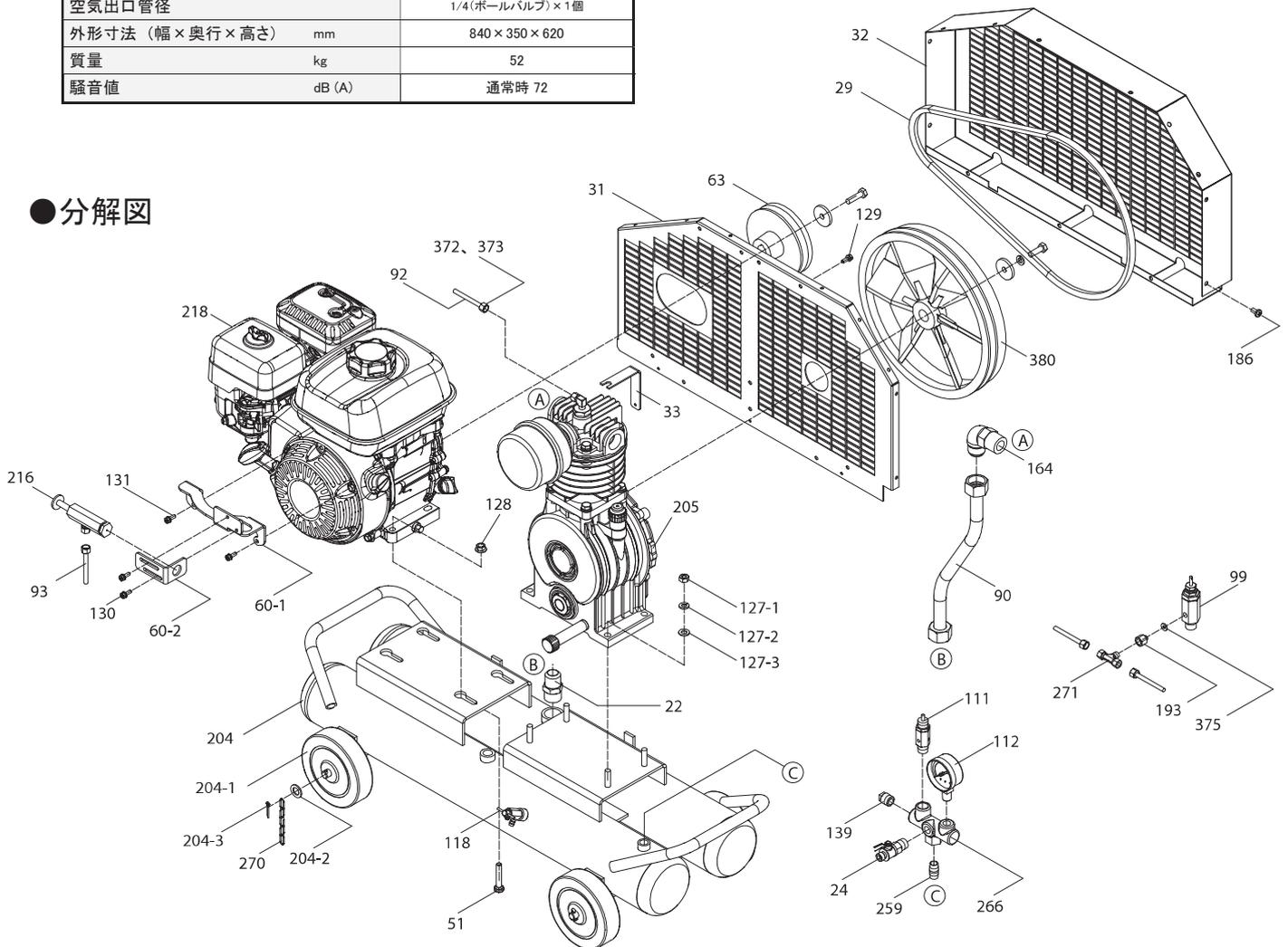
# 立体分解図

## レシプロコンプレッサ

### 仕様

形式	PLUE15C-10	
レシプロコンプレッサ(本体)形式	L15-10	
運転制御形式	アンローダ制御(減速機能付)	
出力	kW (PS)	2.2 (3)
回転速度	min <sup>-1</sup>	1350
吐出し空気量	L/min	170
吐出し圧力	MPa	1.0
空気タンク容量	L	11
空気出口管径	1/4(ボールバルブ)×1個	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	mm	840×350×620
質量	kg	52
騒音値	dB (A)	通常時 72

### 分解図



番号	部品名称	個数
22	フレアジョイント	1
24	ボールバルブ	1
29	Vベルト	1
31	ベルトガード(1)	1
32	ベルトガード(2)	1
33	ガード吊りステー	1
51	ボルト	4
60-1	PUステアー(1)	1
60-2	PUステアー(2)	1
63	エンジンプーリ	1
90	接続管セット	1

番号	部品名称	個数
92	アンローダパイプ	1
93	ナイロンチューブ	1
99	アンローダ	13
111	安全弁	1
112	圧力計	1
118	ドレンバルブ	4
127-1	六角ナット	4
127-2	ばね座金	4
127-3	平座金	1
128	フランジ付六角ナット	4
129	アブセットボルト	5

番号	部品名称	個数
130	アブセットボルト	2
131	アブセットボルト	2
139	プラグ	1
164	特殊エルボ	1
186	タッピンネジ	13
193	ジョイント	1
204	空気タンクセット	1
204-1	ソリッドタイヤ	4
204-2	座金	4
204-3	割りピン	4
205	レシプロコンプレッサ(本体)	1

番号	部品名称	個数
216	パイロットアンローダ	1
218	エンジン (GX120T2SAJ1)	1
259	パレルニップル	1
266	分岐ジョイント	1
270	鎖	1
271	チーズユニオン	1
372	スリーブ	1
373	袋ナット	1
374	ジョイント	1
375	パッキン	1
380	フライホイールプーリ	1

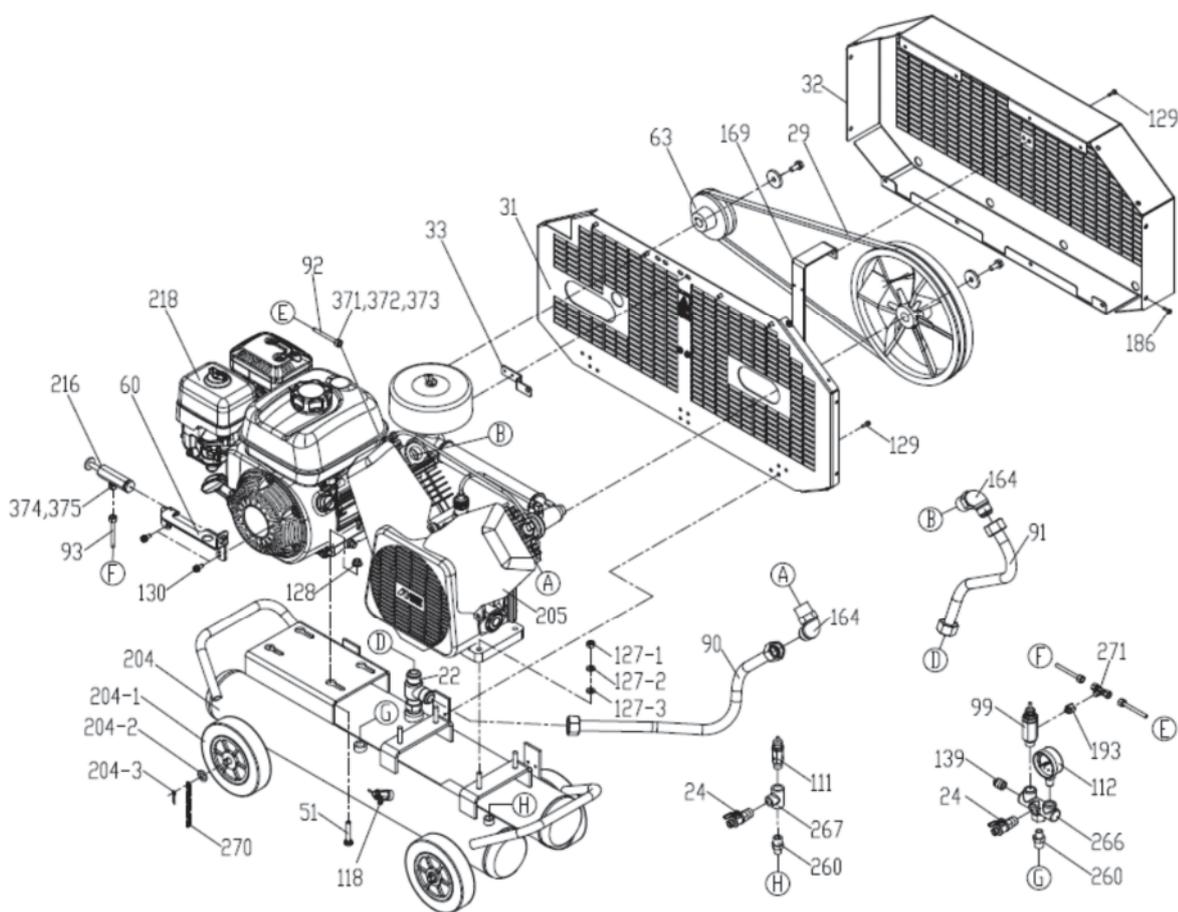
# 立体分解図

## ■レシプロコンプレッサ

### ●仕様

形式	PLUE22CB-10	
レシプロコンプレッサ(本体)形式	L222-10	
運転制御形式	アンローダ制御(減速機能付)	
出力	kW (PS)	2.2 (3)
回転速度	min <sup>-1</sup>	1100
吐出し空気量	L/min	265
吐出し圧力	MPa	1.0
空気タンク容量	L	11
空気出口管径	1/4(ボールバルブ)×2個	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	mm 900×395×680	
質量	kg	62
騒音値	dB (A)	通常時 76

### ●分解図



番号	部品名称	個数
22	特殊ジョイント	1
24	ボールバルブ	2
29	Vベルト	1
31	ベルトガード(1)	1
32	ベルトガードセット	1
33	ガード吊りステー	1
51	ボルト	4
60	PUステア	1
63	エンジンプーリ	1
90	右接続管セット	1
91	左接続管セット	1
92	アンローダパイプ	1

番号	部品名称	個数
93	ナイロンチューブ	1
111	安全弁	1
112	圧力計	1
118	ドレンバルブ	1
127-1	六角ナット	4
127-2	ばね座金	4
127-3	平座金	4
128	フランジ付六角ナット	4
129	アプセットボルト	10
130	アッブセットボルト	2
139	プラグ	1

番号	部品名称	個数
139	プラグ	1
164	特殊エルボ	2
169	ガード押さえステー	1
186	タッピンネジ	18
193	ジョイント	1
204	空気タンクセット	1
204-1	ゼロプレッシャタイヤ	4
204-2	座金	4
204-3	割りピン	4
205	レシプロコンプレッサ(本体)	1
216	パイロットアンローダ	1
218	エンジン(GX160T2SAJ1)	1

番号	部品名称	個数
260	径違いニップル	2
266	分岐ジョイント	1
267	径違いチー	1
270	鎖	1
271	チーズユニオン	1
371	インサートリング	1
372	スリーブ	1
373	袋ナット	1
375	パッキン	1

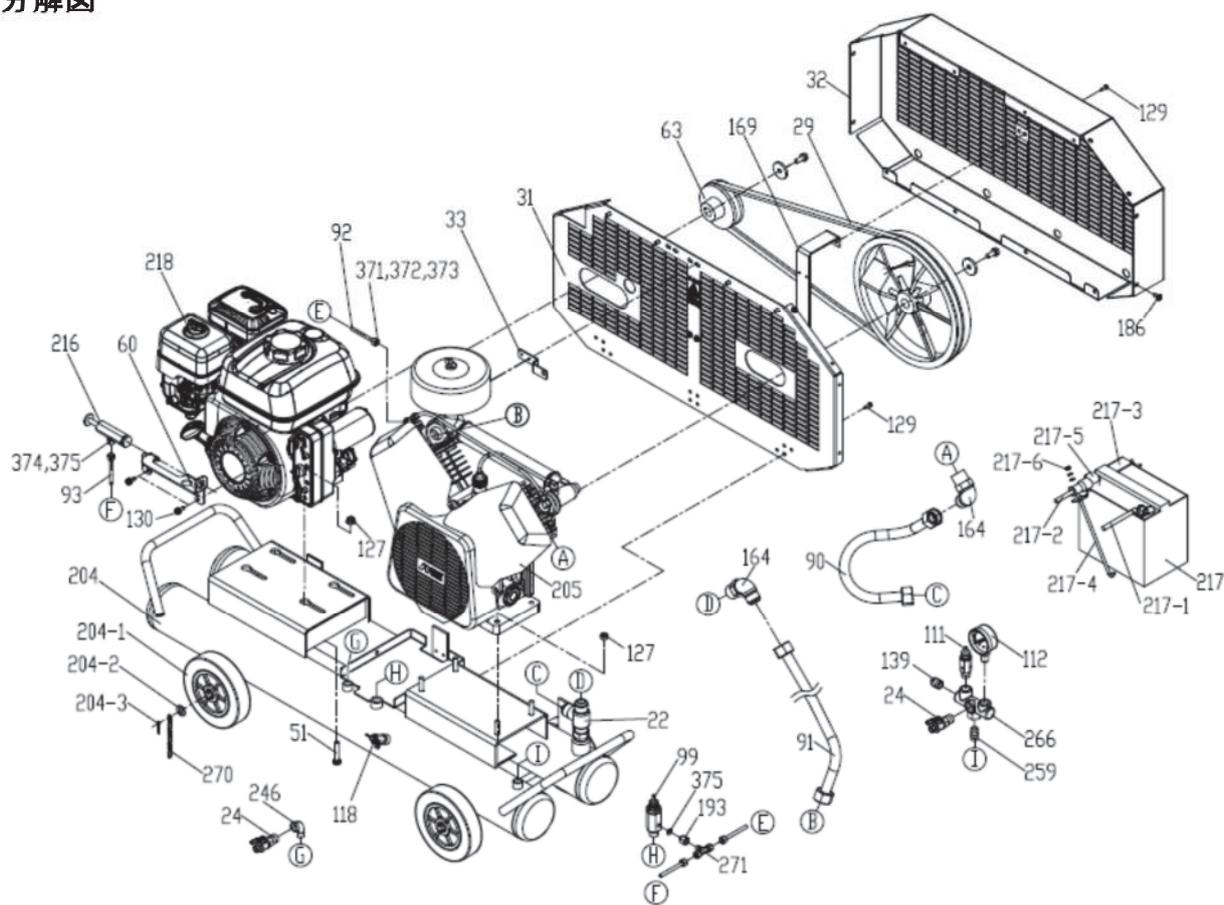
# 立体分解図

## ■レシプロコンプレッサ

### ●仕様

形式	PLUE22CB-10S	
レシプロコンプレッサ(本体)形式	L222-10	
運転制御形式	アンローダ制御(減速機能付)	
出力	kW (PS)	2.2 (3)
回転速度	min <sup>-1</sup>	1100
吐出し空気量	L/min	265
吐出し圧力	MPa	1.0
空気タンク容量	L	15
空気出口管径	1/4(ボールバルブ)×2個	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	mm	1160×415×695
質量	kg	83
騒音値	dB (A)	通常時 76

### ●分解図



番号	部品名称	個数
22	特殊ジョイント	1
24	ボールバルブ	2
29	Vベルト	1
31	ベルトガード(1)	1
32	ベルトガードセット	1
33	ガード吊りステー	1
51	ボルト	4
60	PUステー	1
63	エンジンブリー	1
90	右接続管セット	1
91	左接続管セット	1
92	ナイロンチューブ	1

番号	部品名称	個数
93	ナイロンチューブ	1
99	アンローダ	1
111	安全弁	1
112	圧力計	1
118	ドレンバルブ	1
127	フランジ付六角ナット	8
129	アプセットボルト	10
130	アプセットボルト	2
139	プラグ	1
169	ガード押さえステー	1
186	タッピンネジ	18

番号	部品名称	個数
193	ジョイント	1
204	空気タンクセット	1
204-1	ゼロプレッシャタイヤ	4
204-2	座金	4
204-3	割りピン	4
205	レシプロコンプレッサ(本体)	1
216	パイロットアンローダ	1
217	バッテリー	1
217-1	バッテリーコード(赤)	1
217-2	バッテリーコード(黒)	1
217-3	バッテリーステー	1
217-4	フックボルト	2

番号	部品名称	個数
217-5	絶縁キャップ	1
217-6	六角ナット	2
218	エンジン(GX160T2SAJ1)	1
246	ストリートエルボ	1
259	パレルニップル	1
266	分岐ジョイント	1
270	鎖	1
271	チーズユニオン	1
371	インサートリング	1
372	スリーブ	1
373	フクロナット	1
375	パッキン	1

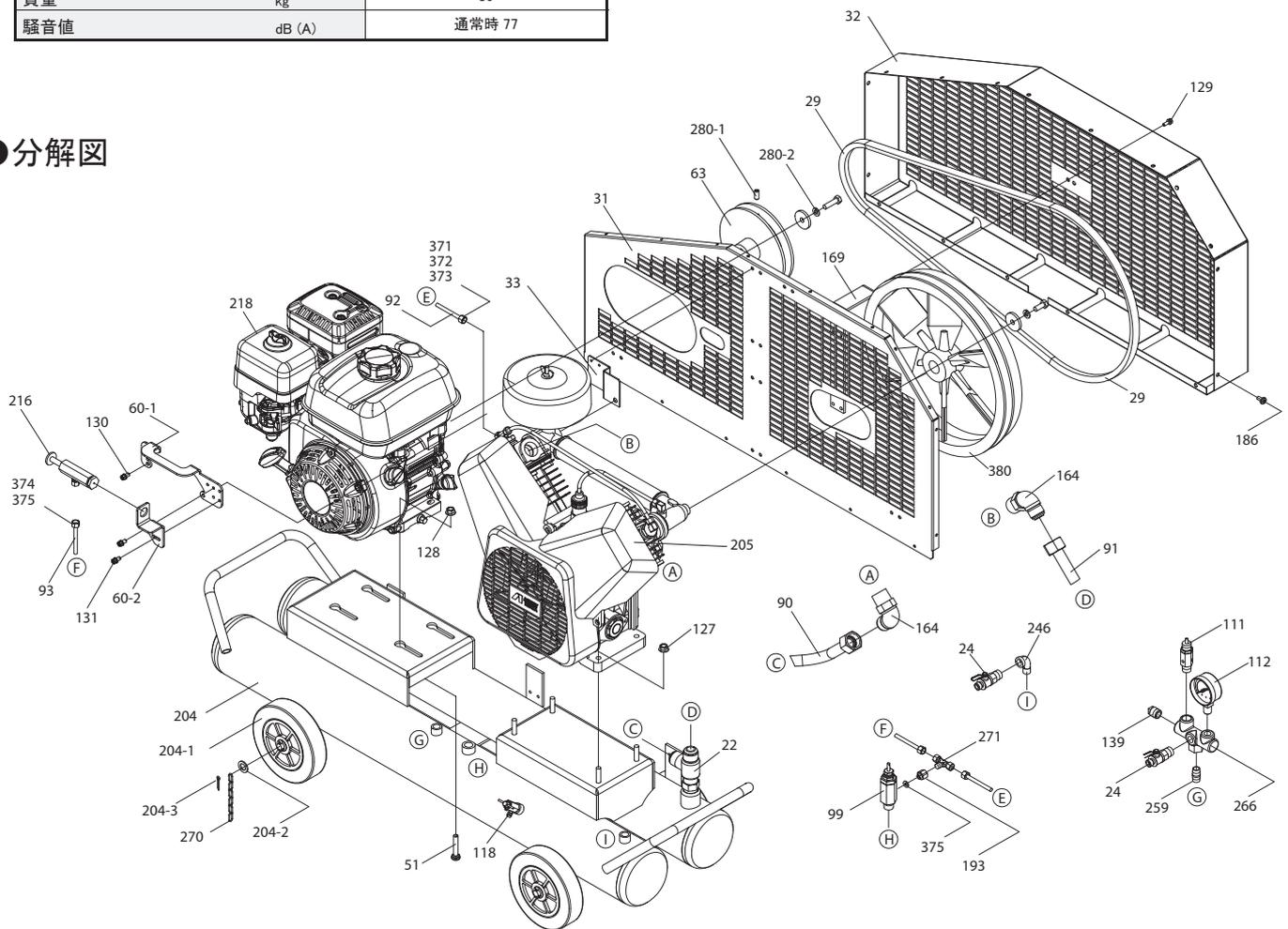
# 立体分解図

## レシプロコンプレッサ

### 仕様

形式	PLUE37C-10	
レシプロコンプレッサ(本体)形式	L222-10	
運転制御形式	アンローダ制御(減速機能付)	
出力	kW (PS)	3.7(5)
回転速度	min <sup>-1</sup>	1640
吐出し空気量	L/min	395
吐出し圧力	MPa	1.0
空気タンク容量	L	15
空気出口管径	1/4(ボールバルブ)×2 個	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	mm	1160×410×710
質量	kg	80
騒音値	dB (A)	通常時 77

### 分解図



番号	部品名称	個数
22	特殊ジョイント	1
24	ボールバルブ	2
29	V ベルト	1
31	ベルトガード(1)	1
32	ベルトガード(2)	1
33	ベルトガード吊りステー	1
51	ボルト	4
60-1	PU ステー(1)	1
60-2	PU ステー(2)	1
63	エンジンブーリ	1
90	右接続管セット	1
91	左接続管セット	1

番号	部品名称	個数
92	アンローダパイプ	1
93	ナイロンチューブ	1
99	アンローダ	1
111	安全弁	4
112	圧力計	1
118	ドレンバルブ	4
127	フランジ付六角ナット	4
128	フランジ付六角ナット	4
129	アプセットボルト	10
130	アプセットボルト	2
131	アプセットボルト	2
139	プラグ	1

番号	部品名称	個数
164	特殊エルボ	1
169	ガード押さえステー	1
186	タッピンネジ	18
193	ジョイント	1
204	空気タンクセット	1
204-1	ゼロプレッシャタイヤ	4
204-2	座金	1
204-3	割りピン	4
205	レシプロコンプレッサ(本体)	1
216	パイロットアンローダ	1
218	エンジン(GX200T2SAJ1)	1
246	ストリートエルボ	1

番号	部品名称	個数
259	パレルニップル	1
266	分岐ジョイント	1
270	鎖	1
271	チーズユニオン	1
280-1	六角穴付止めネジ	1
280-2	ばね座金	1
371	インサートリング	1
372	スリーブ	1
373	袋ナット	1
375	パッキン	1
380	フライホイールブーリ	1

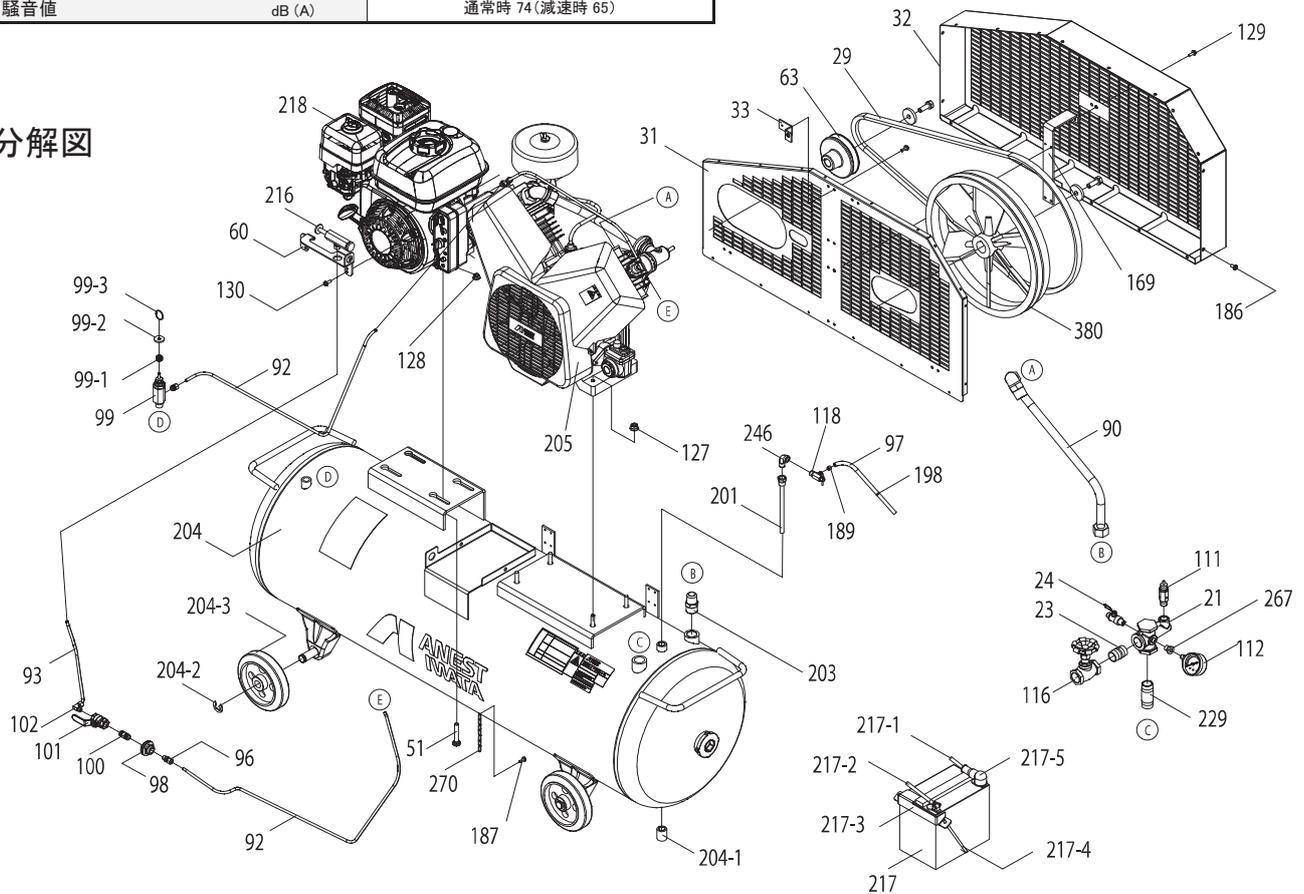
# 立体分解図

## レシプロコンプレッサ

### 仕様

形式	TLUE22C-14S	
レシプロコンプレッサ(本体)形式	L222-14	
運転制御形式	アンローダ制御(減速機能付)	
出力	kW (PS)	2.2 (3)
回転速度	min <sup>-1</sup>	920
吐出し空気量	L/min	235
吐出し圧力	MPa	1.4
空気タンク容量	L	165
空気出口管径	1/4(ボールバルブ)・3/4(ストップバルブ)各1個	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	mm	1430×460×1000
質量	kg	149
騒音値	dB (A)	通常時 74(減速時 65)

### 分解図



番号	部品名称	個数
21	集合ジョイント	1
23	ストップバルブ	1
24	ボールバルブ	1
29	Vベルト	1
31	ベルトガード(1)	1
32	ベルトガード(2)	1
33	ベルトガード吊りステー	1
51	ボルト	4
60	PU ステー	1
63	エンジンプーリ	1
90	接続管セット	1
92	ナイロンチューブ	1
93	ナイロンチューブ	1
96	ハーフユニオン	1
97	排水パイプ	2

番号	部品名称	個数
98	PTパネル	1
99	アンローダ	1
99-1	バネ	1
99-2	ハンドル	1
99-3	リング	1
100	バレルニップル	1
101	ボールバルブ	1
102	エルボユニオン	1
111	安全弁	1
112	圧力計	1
116	バレルニップル	1
127	フランジ付六角ナット	4
128	フランジ付六角ナット	4
129	アプセットボルト	12

番号	部品名称	個数
130	アプセットボルト	1
164	特殊エルボ	1
169	ガード押さえステー	1
186	タッピングネジ	10
187	タッピングネジ	1
189	ホースクリップ	1
198	結束バンド	2
201	ドレンパイプセット	1
203	フレアジョイント	1
204	空気タンクセット	1
204-1	プラグ	1
204-2	止め輪	4
204-3	ソリッドゴムシャリン	4
205	レシプロコンプレッサ(本体)	1
216	パイロットアンローダ	1

番号	部品名称	個数
217	バッテリー	1
217-1	バッテリーコード(赤)	1
217-2	バッテリーコード(黒)	1
217-3	バッテリーステー	1
217-4	フックボルト	2
217-5	絶縁キャップ	1
218	エンジン (GX160T2SAEJ)	1
229	ロングニップル	1
246	ストリートエルボ	1
267	ブッシュ	1
270	鎖	1
380	フライホイールプーリ	1

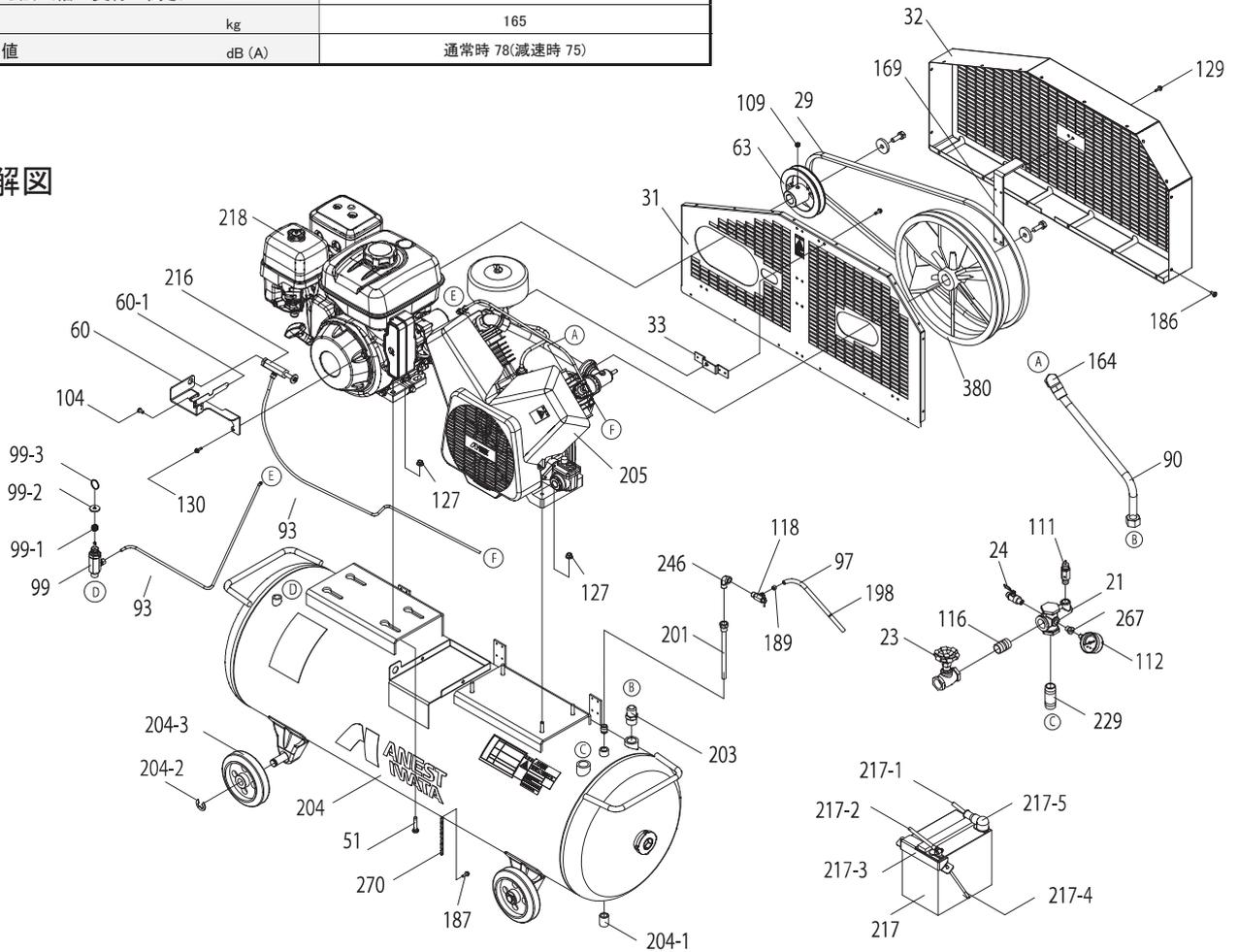
# 立体分解図

## レシプロコンプレッサ

### 仕様

形式	TLUE37C-14S	
レシプロコンプレッサ(本体)形式	L372-14	
運転制御形式	アンローダ制御(減速機能付)	
出力	kW (PS)	3.7 (5)
回転速度	min <sup>-1</sup>	1100
吐出し空気量	L/min	390
吐出し圧力	MPa	1.4
空気タンク容量	L	165
空気出口管径	1/4(ボールバルブ)・3/4(ストップバルブ)各1個	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	mm	1430×460×1000
質量	kg	165
騒音値	dB (A)	通常時 78(減速時 75)

### 分解図



番号	部品名称	個数
21	集合ジョイント	1
23	ストップバルブ	1
24	ボールバルブ	1
29	V ベルト	1
31	ベルトガード(1)	1
32	ベルトガード(2)	1
33	ベルトガード吊りステー	1
51	ボルト	4
60	PU ステー	1
60-1	レバー	1
63	エンジンプーリ	1
90	接続管セット	1
93	ナイロンチューブ	2
97	排水パイプ(2)	1

番号	部品名称	個数
99	アンローダー	1
99-1	パネ	1
99-2	ハンドル	1
99-3	リング	1
104	タッピンネジ	2
111	安全弁	1
112	圧力計	1
116	パレルニップル	1
118	ドレンバルブ	1
127	フランジ付六角ナット	8
129	アブセットボルト	14
130	アブセットボルト	2
164	特殊エルボ	1

番号	部品名称	個数
169	ガード押さえステー	1
186	タッピンネジ	18
187	タッピンネジ	3
189	ホースクリップ	1
198	結束バンド	2
201	ドレンパイプセット	1
203	フレアジョイント	1
204	空気タンクセット	1
204-1	プラグ	1
204-2	止め輪	4
204-3	ソリッドゴムシャリン	4
205	レシプロコンプレッサ(本体)	1
216	パイロットアンローダ	1
217	バッテリー	1

番号	部品名称	個数
217-1	バッテリーコード(赤)	1
217-2	バッテリーコード(黒)	1
217-3	バッテリーステー	1
217-4	フックボルト	2
217-5	絶縁キャップ	1
218	エンジン (GX270T2 SAEJ)	1
229	ロングニップル	1
246	ストリートエルボ	1
267	ブッシュ	1
270	鎖	1
380	フライホイールプーリ	1

# 保証と修理サービス

## ■保証について

### 保証書(保証規定)

お買い上げの商品を本取扱説明書にしたがって正常のご使用で万一故障がございましたときは、本保証書の記載内容により無償修理いたします。

形式	品名
お客様	コンプレッサ
御社名	
お名前	
〒□□□-□□□□	
ご住所	
TEL ( ) -	FAX ( ) -
保証期間	ご購入日 年 月 日から 「1年間」または「2,500時間」 のいずれか先に到達した期間を「保証期間」とします。
販売店	販売店名
〒□□□-□□□□	
住所	
TEL ( ) -	FAX ( ) -

#### ◇無償修理を受けるための条件および手続きと保証範囲

- (1) 本保証書をご提示のうえお買い上げの販売店又は当社支店・営業所にご依頼ください。
- (2) 本保証書に記入した内容（お買い上げ日、販売店）を確認できる納品書等を提示願います。
- (3) 本保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in japan.
- (4) 本製品の故障または不具合に伴う生産補償、営業補償などの二次補償に対する保証は致しません。

#### ◇次の場合は保証期間内でもお客様のご負担（有償）になります。

- (1) 本保証書のご提示が無い場合
- (2) 本保証書にお名前、お買い上げ日、販売店名の記載が無い場合あるいは字句等を書換えられている場合
- (3) 取扱上の不注意・取扱説明書の記載事項を守られなかったことによる故障および損傷
- (4) 消耗品の交換・修理
- (5) 指定外の動力源（電圧、周波数、燃料他）又は天災・地変（火災、地震、水害、塩害、落雷、公害など）による故障および損傷
- (6) 純正部品以外の部品が使用されている場合
- (7) 製品を無断で改造している場合
- (8) 当社指定の修理店以外による修理がなされている場合

#### ◇法的責任

本保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。

従って、本保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等またはご不明な点はお買い上げの販売店または当社支店・営業所までお問い合わせください。

#### ◇保証書の保管

- 「保証書」は、内容をよくお読みになったうえで、「お客様のお名前・ご住所」、「お買い上げ日」、「販売店」など必要事項については、誠に恐縮ですがお客様にご記入していただき、納品書と共に大切に保管して下さるようお願いいたします。
- 本保証書は紛失されても再発行しませんので、大切に保管してください。

# 保証と修理サービス

## ■修理サービスについて

修理を依頼されるときは

- 修理はお買い上げの販売店又は当社支店・営業所にご相談ください。  
このときお買い上げの商品の形式名およびお買い上げの時期をお知らせください。
- 保証期間経過後の修理は、修理により機能が維持できる場合、お客様のご要望により有料にて修理いたします。
- 詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。  
また、その他ご不明な点は当社支店・営業所へお気軽にお問い合わせください。

### お問い合わせ先

#### ▶ 電話でのお問い合わせ

- ・コンプレッサ、窒素ガス発生装置、真空ポンプ、DIY 商品に関するお問い合わせ



0800-111-9681

- ・その他上記以外に関するお問い合わせ



0120-917-144

受付時間：9:00～12:00 / 13:00～17:00  
但し、土日・祝日・弊社指定休日を除く。

#### ▶ メールでのお問い合わせ

当社ホームページのお問い合わせフォームをご利用ください。



<http://www.anest-iwata.co.jp>

